

平成25年度

みんなのPTA

福井県PTA指導者研修会報告書

福井県生涯学習センター

はじめに

2020年に行われる第32回夏季五輪・パラリンピック大会の開催都市が東京に決定しました。また、本県においても、「福井しあわせ元気国体」が5年後に開催されます。これらのスポーツイベントは、スポーツを通して、子どもたちが心身ともに健全に成長するきっかけ作りとなり、将来に夢が持てる希望に満ちた明るいニュースとなりました。

しかし、このような明るいニュースがある反面、人間関係の希薄化や規範意識の低下から起こる憂慮すべき問題が数多く見受けられます。

本県では、多くの世代が共に支え合いながら暮らす「三世代同居」や「三世代近居」の割合が高く、家族や地域のつながり、絆がしっかり残っています。また、「福井型コミュニティスクール」など地域の教育力を活かし、家庭・地域・学校の三者の連携を強化する取組も行われています。また、国体に向けて、各競技団体が地域社会と協力し合って、子どもたちの可能性を伸ばす活動を行っています。

学力・体力ともに全国トップクラスという結果は、家庭・地域・学校がともに、子どもたちを健やかに育てようとする教育理念が結実したものであり、そのことによって、子どもたちは安心して教育を受けられる環境を得たからだと考えます。

この三者の良好な関係を保つ要としてPTAが担う役割は大きく、活動の充実がより一層求められています。

本年度の幼小中および高等学校のPTA研修会では、地域の活性化につながった活動やPTAの活動意義を考える活動など、それぞれの特色を活かした活動内容が発表され、参加者の大きな関心と呼び、意義のある研修会となりました。

今回、これら研修会での発表を一冊の報告書にまとめました。皆様の今後の活動の参考として御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、研修会の運営や当報告書の作成に御協力いただきました皆様方に深く感謝申し上げますとともに、本県のPTA活動がますます発展され、地域社会を担う中核として御活躍されることを心から祈念申し上げます。

平成26年2月

福井県生涯学習センター

所長 今 富 廣 子

目 次

福井県幼・小・中 P T A活動研修会

	ページ
【 坂井地区 】	
「地域での子どもたちの安全についての取り組み」 坂井市立大関小学校・幼稚園 P T A	1
「子どもと地域と共に歩む P T A」 坂井市立丸岡中学校 P T A	7
【 奥越地区 】	
「 P T A活動を楽しもう！」 大野市有終東小学校 P T Aみつば会	13
「家庭から地域へ」 勝山市立荒土小学校 P T A	18
【 福井・永平寺地区 】	
「自ら立ち上がる保護者会を目指して」 ～愛されて愛する子を育てるために～ 光の子幼稚園 P T A保護者会 「花＊花会」	25
「「だいだいの願い」に込められた私達の願い 「ひろめよう大々的に」「ともそう橙色に」「つなごう代々に」 ～三世代交流を目的とした松本まつりにおける 「子ども」がつなぐ地区の絆～」 福井市松本小学校 P T A	31
「母校訪問駅伝が残しているもの」 福井市足羽第一中学校 P T A	37
【 丹南地区 】	
「家庭・地域・学校の連携による活動 ～地域を愛する子どもたちを育むために～」 越前町立朝日小学校 P T A	43
「ひろげる連携活動～地域の小学校・高校 P T Aとの連携活動の試み～」 越前町立朝日中学校 P T A	48
【 嶺南地区 】	
「学校と家庭と地域の支え合いで、笑顔いっぱいの P T A活動」 美浜町丹生小学校 P T A	53
「地域で子どもを育てる環境づくり～あたたかな まなざしを感じて～」 おおい町立名田庄中学校 P T A	58

福井県高等学校 P T A指導者研修会

【 嶺北地区 】	
「本校の教育と P T A活動および高校再編との関わり」 福井県立奥越明成高等学校 P T A	63
「心豊かに育て～親の関わりで子供を応援～」 福井県立福井農林高等学校 P T A	70
【 嶺南地区 】	
「 P T A活動は、面白い！ 楽しい！ そして 感動があります」 福井県立若狭高等学校 P T A	75

平成25年度 福井県幼・小・中PTA活動研修会 実施状況一覧

《 地区別研修会 》

地区・期日・会場	講演・研修内容	実践発表校
<p>【 坂井地区 】</p> <p>6月15日(土)</p> <p>坂井市</p> <p>高椋公民館</p> <p>「たかむく古城ホール」</p>	<p>講演『親の後ろ姿・得意技で子育てを』</p> <p>講師 元三方中学校校長 元福井警察署スクールサポーター 若新 一雄 氏</p>	<p>坂井市立</p> <p>大関小学校・幼稚園PTA</p> <p>坂井市立</p> <p>丸岡中学校PTA</p>
<p>【 奥越地区 】</p> <p>6月23日(日)</p> <p>勝山健康福祉センター</p> <p>「すこやか」</p>	<p>講演『健康で長寿・越前福井の食 食は人を作る ～食べ物作りは人作り～』</p> <p>講師 学校法人天谷学園 理事長 天谷 祥子 氏</p>	<p>大野市</p> <p>有終東小学校PTAみつば会</p> <p>勝山市立</p> <p>荒土小学校PTA</p>
<p>【 福井・永平寺地区 】</p> <p>6月29日(土)</p> <p>福井県生活学習館</p>	<p>講演『親の言葉ぐせが子どもの人生をつくる …「条件付の愛」と「無条件の愛」…』</p> <p>講師 和田教育研究所 所長 和田 周平 氏</p>	<p>光の子幼稚園PTA保護者会 「花*花会」</p> <p>福井市</p> <p>松本小学校PTA</p> <p>足羽第一中学校PTA</p>
<p>【 丹南地区 】</p> <p>6月30日(日)</p> <p>越前市文化センター</p> <p>中ホール</p>	<p>講演『よろこびを力に ～登山とマラソンの魅力をとおして ～』</p> <p>講師 福井警察署スクールサポーター 福井市安居中学校前校長 山本 利幸 氏</p>	<p>越前町立</p> <p>朝日小学校PTA</p> <p>朝日中学校PTA</p>
<p>【 嶺南地区 】</p> <p>7月6日(土)</p> <p>美浜町</p> <p>生涯学習センター</p> <p>「なびあす」</p>	<p>講演『食べる力は生きる力』</p> <p>講師 仁愛大学 名誉教授 堀江 和代 氏</p>	<p>美浜町</p> <p>丹生小学校PTA</p> <p>おおい町立</p> <p>名田庄中学校PTA</p>

地域での子どもたちの安全についての取り組み

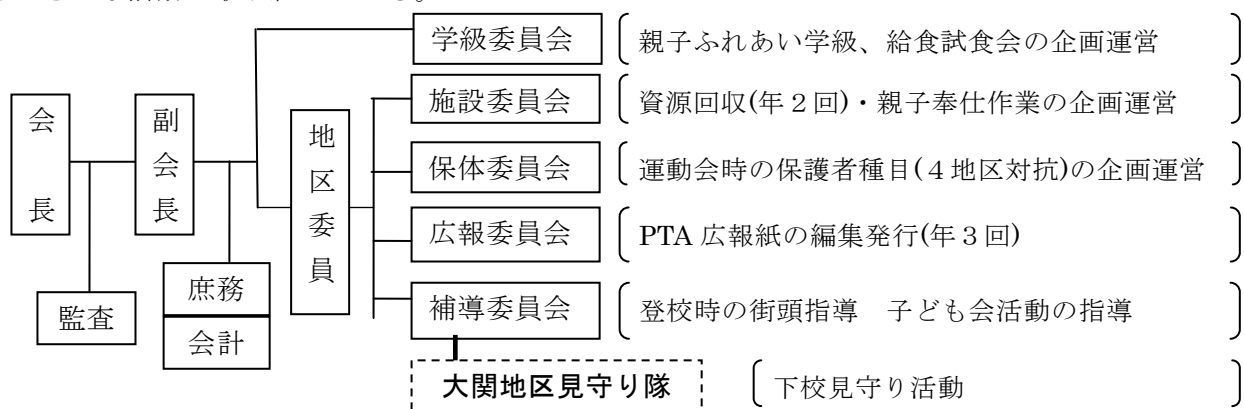
坂井市立大関小学校・幼稚園 P T A

はじめに

大関小学校は、学校を中心に、東部の関地区(7集落)、南部の大口地区(6集落)、西部の大味地区(9集落)の3ブロック22集落からなり、校区全体が平野部に位置する農村地域にある。集落間は水田等の農地で分離し、児童の家並みが切れる区間を通学路として登下校を行っている。

このため、交通量の多い道路で強い風雨にさらされる、不審者等に遭遇時の逃げ場所がない等、地域での安全面で心配な部分もある。また、昨年には、校区内で児童が立て続けに不審者に遭遇する事案も起きている。子どもの安全な地域づくりは、学校・PTAの課題となっている。

平成25年度は、PTA会員176名。(児童数207名。幼稚園は、昨年度より休園)PTA組織は、地区委員をメンバーとする補導、施設、広報、保健体育の4委員会と学級委員会の5委員会であり、さまざまな活動に取り組んでいる。



1 地域での安全についての取り組み

(1) 登校時の街頭安全指導

- ① 全会員による街頭安全指導…各地区(集落)単位で、指導地点・指導日を割り振り、実施。
- ② 補導委員会による街頭安全指導…交通量の多い交差点2カ所で実施。

(2) 親子防犯教室

昨年度、ふれあい学級(学級委員会企画)で、不審者遭遇時の対応について、坂井警察署員による防犯教室を実施。



(3) 通学路の安全点検と改善

学校とともに通学路の安全点検を実施。
特に、歩道部分が確保されていない県道区間2カ所について、県、該当区間の地区と協力し、新たに歩道部分を確保することができた。



2 見守り隊の活動

(1) 見守り活動の始まり

平成17年度に県の「子ども安心三万人作戦」をうけ、見守り隊の活動が始まる。

PTA 会長が、学校とともに老人会(関地区2 大口地区1 大味地区1 計4地区)にボランティアへの参加協力を依頼する。

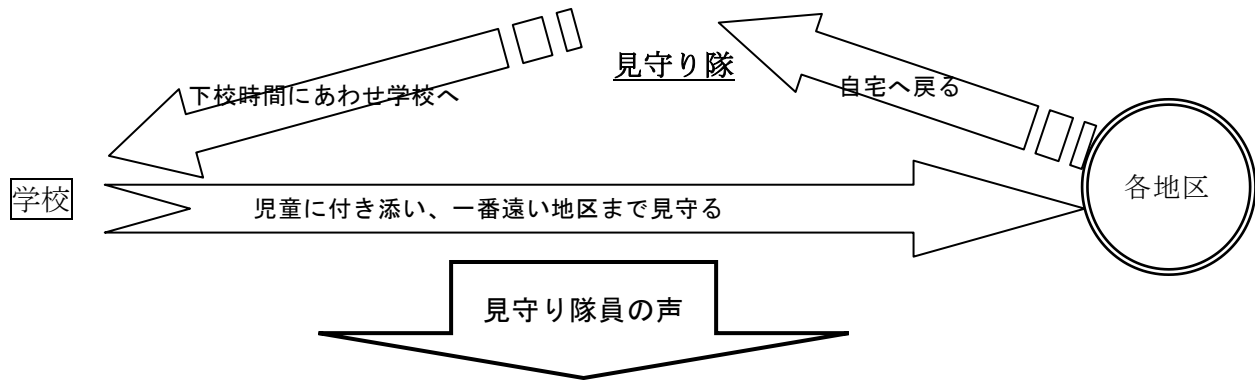
(2) 当初の活動

週3回(月・水・金)見守り隊登録者(H20より幼~2年保護者が、学期1回加わる)を割り振る

1・2年児童下校時に、学校から児童グループ(帰る方向が同じ地区で編成)に付き添い、最



遠地区まで見守る。



- 見守り隊人員が減少し、負担が大きい。
- 児童数が多く、先頭から最後尾までが長くなり、少ない人数(2人)では目が届かない。
- 途中で2方向に分かれるので常に2人いないと、1方向しかついて行けない。
- PTA で参加してほしい。
- 見守りの時間・距離が大変長く、負担が大きい。
- 学校との往復での方法は、負担が大きく、高齢者の新規見守り隊員は難しい。
- 見守り隊の核を老人クラブから変えて行くべきではないか。
- 必要な人員の確保には、集落内での呼びかけが必要ではないか。
- 活動が長続きするためには、負担を軽くすることが必要ではないか。
- 児童の下校時間にあわせ、集落の出入り口等で見守る方法へ変えてはどうか。
- 学校だより、PTA 総会、地区広報紙等で募集案内をしたが、人員が増えない。

(3) 見守り活動の見直し(平成22年度)

PTA 会長の呼びかけで、これからの見守り活動について考える会議を開催。

- ① メンバー
 - ・PTA…会長 PTA 副会長 補導委員長 学校…校長 教頭 教務
 - ・歴代 PTA 会長…見守り活動開始時以降(4名)
 - ・地域関係団体…老人会 防犯隊 交通安全協会 セーフティーパトロール隊
まちづくり協議会 区長会 民生児童委員 公民館長

② 協議内容

- ・PTA 主体で運営組織をつくる。まず、PTA (保護者) が動かなくてはいけない。
- ・見守り隊員の負担を軽減するために、見守り方法、募集方法を見なおす。
- ・PTA 特別会計に見守り隊運営費を項目としてつくる。

(4) 平成23年度からの見守り活動

① 見守り方法の変更

大関小学校・幼稚園見守り隊の活動について

1 見守りの基本方針

- 安全・安心な地域環境の実現をめざし、児童・園児の下校時に見守り活動をする。
- 子どもの保護者、家族、地域住民から「子どもを見守り、安全・安心な地域をつくろう」ということに賛同し協力いただける方々で組織する。
- 「無理をせず できる時間に できる場所で」を念頭に、個々ができる範囲で活動する。

2 組織

- (1) 隊長 : 大関小学校 PTA 会長
- (2) 隊員 : 地域ボランティア、幼稚園及び小学校1・2・3年の保護者や家族
※児童・園児を学童に預ける保護者も該当する。
- (3) 庶務・連絡先: 大関小学校 (教頭 または 教務)
- (4) 後援・協力 : 大関公民館 (ボランティア保険の加入業務)

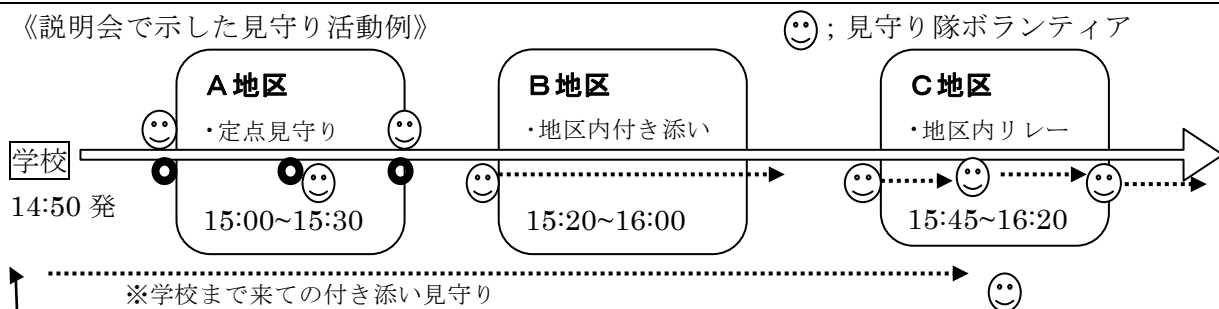
3 活動内容

- (1) 指定見守り日・時間
 - 週3回 (火・水・金) の幼稚園児及び1・2・3年児童の下校時間
午後3:00~3:40の約10~20分間 (※児童下校時間表参照)
 - 見守り隊員は、PTA 補導委員が作成した「見守り活動計画表」により、見守り活動をする。
・都合が悪い場合は事前に学校に連絡し日程を調整する。
- (2) 見守り場所
 - 各地区(集落)の通学路上の指定見守り場所。(地区の出入り口、交差点、危険箇所等)
- (3) 見守り方法
 - 服装 : 地域見守り隊の方は腕章を身につけ、保護者の方は旗を使用し、見守り隊であることがはっきりわかる服装をする。
<目的> ①. 子どもたちにとって安心の目印になります。
②. 不審者に対してのけん制となります。
 - 声かけ : 「おかえり」「こんにちは」などの声かけをする。
 - 方法 : 基本は通学路の要所に立って子どもたちを見守ります。
ご都合がよければ子どもと一緒に下校しながら見守りをする。
 - 緊急連絡先: 大関小学校 電話 72-0003 坂井警察署 電話 66-0110
事件・事故など何か発生した場合はこれらの番号に連絡ください。
- (4) 緊急時
 - 不審者出現や自然災害(台風、大雪など)の緊急時には、学校より連絡させていただきます。
ご都合がよければ下校時付き添いなどの協力を依頼することがあります。
- (5) 指定時間・場所以外での見守り活動(空いた時間で・ついでのときに等)
 - 地域での農作業、散歩、自宅周辺での作業等の時間に見守り隊とわかるものを身につける。
 - 可能なら、高学年の下校時間も見守りにあたる。
 - 地域で普段見ない自動車、不審者等に気を配る。

4 その他

- (1) 見守り隊員は保険に加入する。(保護者は、PTA 安全会で対応する。)
- (2) 児童・園児の交通安全指導とともに、あいさつ指導も願います。
- (3) 年3回「見守り隊の意見交換会」を開き、活動の改善に活かす。
- (4) 1~3年保護者見守りは、年3回(各学期1回)当番日を割り振る。

《説明会で示した見守り活動例》



児童の下校時間にあわせ、各地区の出入り口等で見守る方法に変更する。
見守り隊の方のできる方法で活動する。



(子どもに付き添っての見守り)



(地域の踏切での見守り)



(子どもを迎える保護者見守り)

② 募集日程…新規に PTA 補導委員の業務に加えた。

～12月中
「見守り隊募集広報」の配布

PTA 役員 学校 公民館；作成、印刷
補導委員；地区配布

～1月中
地区での見守り隊活動内容の
説明及び参加協力依頼

補導委員；地区集会、子ども会等で説明、参加依頼
保護者、地域住民等；学校又は**地区補導員**へ申し込み

～1月末
見守り隊参加登録
(第1次集約・以後随時募集)

学校で集約

学校；地区別見守り名簿作成，補導員へ送付

～2月中
地区別見守り隊登録名簿作成

補導委員；新補導委員への引き継ぎ

～3月末
見守り日、場所の割り振り表
の作成及び隊員への配布
見守り用品の支給(腕章等)

新地区委員全員委員会 見守り活動の詳細説明
活動日・場所の割振及び調整

補導委員；見守り活動の手引き，出動割振表，見守り
用品の地区内見守り隊員への配布

補導委員の業務

- ・見守り隊募集広報の地区内配布(現委員)
- ・地区集会等での趣旨説明(現委員)
- ・地区見守り隊員の確保(現委員・新委員)
- ・地区見守り隊の活動日
活動場所の割り振り及び調整(新委員)
- ・見守り用品等の見守り隊員への配布(新委員)

4月～
平成23年度見守り活動開始

③ 見守り情報の配布、意見交換会(年2～3回)の実施、児童との交歓会での交流

地域安全に関わる団体の方から、連携不足が見守り隊員不足等の一番の原因と指摘があった。見守り隊－学校、見守り隊－保護者、地域－学校・保護者、見守り隊－児童 というつながりを深めるための取り組みを続けている。

(5) 課題

- ・活動開始時より継続している見守り隊の方の脱退による人員不足。
- ・下級生1年～2年までの見守りで良いか。3～6年の下校安全は。
- ・隊員に負担が掛かっていないか、再検討及び意見の集約など。
- ・見直しに関わった時の経緯や検討された内容等についての引き継ぎ。
- ・地域団体と連携をどう進めていくか。

地域ぐるみで
子どもの安全を
見守ろう！

無理をせず 出来る時間に できる場所で
大関小・幼見守り隊情報 12月

問い合わせは、大関小
72-0003 まで

見守り隊意見交換会(11/29開催)

※ふれあいフェスティバルで、2年児童と交流

《運営に関すること》

◆下校時刻が通常と変わる日は、月初めに知らせたい。

…前もってはっきりわかっている

3学期分について、裏面で確認

◇見守り時着用の目立つベストを、

…袖のないベストの方がどの季節

◆自分の当番の日を忘れることが、

《児童の下校時・地域での様子等

◇5、6年男子で帰りに通学路以

…児童を集め、安全のため決めら

◆放課後は(帰り)、畑仕事などし

しにくいのだろうか。

…全校集会で、班長を先頭に気持

◇帰り道で、3年男子が言い争い

せたら2人とも元気に帰って行

ともあった。

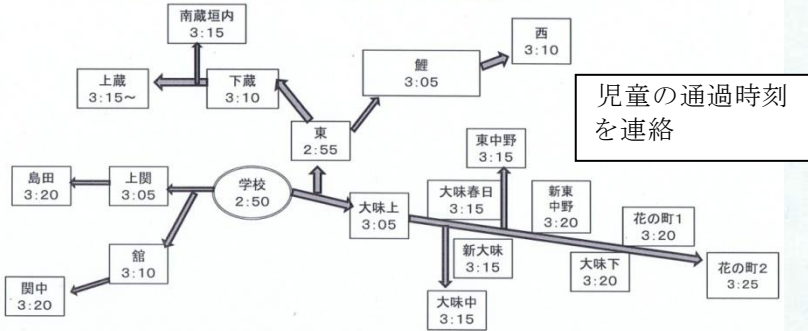
◆郵便局のトイレを借りる子が

◇放課後、どこかへ遊びに行った時、何時までに帰るよ

…学校では暗くなる前には帰り着くように言っています。日没の早い冬は、5時頃まで

には帰るよう伝えて

大関小・幼下校時刻表 H25



児童の通過時刻
を連絡

◆5時間目終了後、下校した場合の各地区通過時間の目安です。
この時間と大きく開かない時間に通過するよう、児童の歩き方など指導していきます。
◆高学年が6時間目を終えて下校する場合、上記の時間の1時間遅れで考えて下さい。



4月に新しい見守り方法でスタートしました「大関小・幼見守り隊」も早や9ヶ月を過ぎようとしています。その間、炎天下でも、雨の日でも、変わらざ子どもたちのために見守り活動をして下さり、誠にありがとうございました。



危険をおかしてまで、不審者を
追跡したり取り押さえたりし
ないでください。

- ★学校での指導事項
- ・知らない人に声をかけられても、ついていったり、車に乗ったりしないようにしましょう。また、近寄らないようにしましょう。
 - ・知らない人に車に連れ込まれそうになったり、危害を加えられそうになったら、すぐに逃げ、大声で助けを求めたり、防犯ブザーを鳴らしましょう。
 - ・遊びに行くときは、お家の人に必ず行く先と帰る時間を伝えておきましょう。
 - ・外出するときは、できるだけ一人歩きはしないようにしましょう。
 - ・危険なことになったら、すぐにお家の人や学校の先生に知らせましょう。

- あれっ?と思ったら あぶない!と思ったら
- あれっ?** ひとりで歩いている子どもがいる・・・
○「車に気をつけてね」「明日からは友達と帰ろうな」などと軽く声をかけてください。
○周囲に不審者、車がないか確認し、見送ってください。その後、巡回や散歩のコースを一人歩きの子どもが向かった方向にするなど、さりげなく見守ってください。
 - あれっ?** 挙動不審な人がいる、見かけない車が止まっている、同じ車が通学路を行ったり来たりしている・・・
○人物の特徴、車のナンバーなどをメモし、警察や学校に連絡してください。
○地域のみなさま、学校、警察が連携して子どもたちの安全を確保しましょう。
 - あぶない!** 不審な物音、子どもが助けを求める声、防犯ブザーの音が聞こえる!
○すぐに声、声のするところに向かってください。
○まず子どもの安全を確保し、不審な人物や車などがあれば、110番に通報してください。
○地域で連絡を取り合い、見守り活動を強化するなどしてください。
※子どものおまわりが原因で、思いがけず防犯ブザーがなってしまふことがあります。
「危いで駆けつけたら間違いない」と憤慨せず、「無事で何より」と思えるゆりをお願いします。
 - あぶない!** 車が子どもに近づいている、子どもが車の人と話している
○子どものところに行き、「こんにちは、学校の帰り?」「見守り活動中です」と声をかけてください。
○車の人が不審者と思われたら、こどもを車から連れさせ、子どもの安全を確保し、110番に通報してください。
※車の人が、家族や子どもの友達の名、顔見知り近所の人などの場合もあります。同じ地域で暮らす者同士、「見守り活動ごころうさます。」と笑顔で話せるといいですね。

子どもたちが安心して過ごせる地域には?

子どもをさりげなく見守る大人がいます!

【質疑応答と意見交換】 発表校 坂井市立大関幼・小学校PTA

あわら市芦原中学校PTA 山崎 氏

質問 下校時の見守り活動の参考になった。街頭での安全指導について、場所や割り振り等、具体的にどのようにしているのか。

回答 年度当初に、各地区補導委員が中心となり、計画を立てている。自地区の状況(会員数、街頭の状況等)で、指導地点・指導日を計画している。地区によっては、月に複数回実施する地区もある。年間の計画書を提出する。

坂井市立春江小学校PTA 古川 氏

意見 登校時の安全について、PTA会員は多いが、なかなか毎日見守ることは難しい。年1回だけ学級で拠点での「さわやかモーニング」見守りを実施している。80～90%の参加がある。

下校は、見守り隊の団体が地域にあるが、協力する方が少なくなっている。大関小と同じ問題。今後も継続するためには、できるだけ地域の方との協力を保ちながらやっていきたいと考えている。

子どもと地域と共に歩むPTA

坂井市立丸岡中学校PTA

はじめに

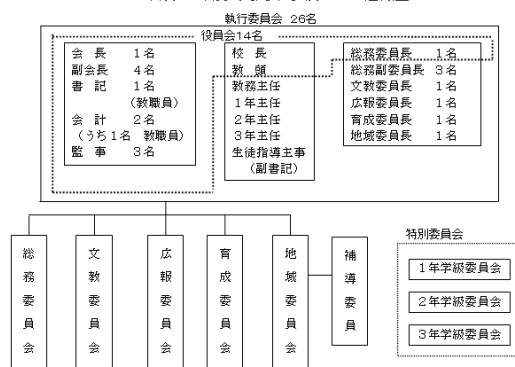
本校は、古くから丸岡城の城下町として栄えてきた丸岡町に位置し、生徒数675名、PTA会員数608名、教職員数50名の大規模校です。

最近の歩みでは、平成19年度に丸岡南中学校と2校化し、平成22年度をもって竹田分校が休校となりました。また、平成23年度に創立50周年記念式典を盛大に行い、本年度9月から耐震工事に伴う校舎改築に2年計画で取りかかる予定です。

生徒は落ち着いて学習や部活動に取り組んでおり、部活動では地区大会や県大会に優勝し、北信越大会・全国大会に出場する部活動も数多くあります。地域ボランティアにも力を入れており、先日の「古城マラソン」では、運動部だけでなく文化部も総出でボランティアとして参加し、地域の話題を集めました。



平成25年度 丸岡中学校PTA 組織図



拡大執行委員会は、執行委員会に、各副委員長、総務委員、学年副主任を加えた、合計41名で構成。

1 本校のPTAの組織

(1) 組織

本校のPTAは、総会（毎年4月に開催）をはじめ、役員会、執行委員会、拡大執行委員会、各委員会委員長で構成されています。役員会は（教員の書記1名、会計1名の2名含む）と校長・教頭を合わせた14名で組織されており、役員会に各委員会の正副委員長、担当教員を加えたものが拡大執行委員会となっています。

(2) 各委員

各委員会の委員は、各学級より父親代表・母親代表という形の学級委員として選出された方が、自動的に各委員会に配属されます。

補導委員は、地区ごとに選出され、各委員とは兼ねません。補導委員のおもな仕事としては、バザーや資源回収のビラの配布と品物の回収です。

2 各委員会の平成24年度の活動内容

(1) 育成委員会 …… 給食体験会

ここ数年、育成委員会は給食体験会を開催してきました。一昨年までは給食試食会という名前でしたが、昨年度は懇談会を持つ、配膳活動も体験・参観してみる、など前進した内容となりました。

【委員会の構成員と主な活動】

各委員会	構成員
総務委員会 計19名	P…委員長、副委員長3名、委員3名、 担当役員2名 3年学級委員(1組～4組)8名 T…書記、会計
文教委員会 計15名	P…委員長、副委員長2名、担当役員2名、 3年学級委員(5組～8組)6名 T…3年学年主任、3年学年副主任
広報委員会 計21名	P…委員長、副委員長2名、担当役員2名 2年学級委員(1組～7組)14名 T…2年学年主任、2年学年副主任
育成委員会 計14名	P…委員長、副委員長2名、担当役員1名 1年学級委員(1組～4組)9名 T…1年学年主任、1年学年副主任
地域委員会 計13名	P…委員長、副委員長3名、担当役員1名 1年学級委員(5組～7組)6名 T…副書記、担当教員 P…補導委員(100名強)

[第1回給食体験会 6月2日(土) 11:00～13:00 多目的ホール・教室 参加者53人]

① 座談会

給食業者の方を2名お迎えして、気をつけていること、スライドで調理の流れなどを説明していただき、その後、質疑応答に入りました。学校の給食担当の先生からも、給食の様子についてお話をいただきました。さらに、学校栄養職員さんもお招きして、献立を考える側からのお話や福



井の食材を使ったレシピなども紹介していただきました

② 給食体験

配膳と食事という模擬給食時間を体験していただきました。終了後、アンケートをとり、今後活かしていただくこととしました。

[第2回給食体験会 12月5日(水) 11:30~15:00 多目的ホール・教室 参加者17名]

① 給食時間の参観

普段なかなか見ることができない学校給食の様子を見ていただきました。また、新しい試みとして、校区内の小学校6年生の保護者にも声をかけ、少数ではありましたが参加していただくことができました。給食業者の方も配膳の様子を実際に見ることができて、今後役に立つとおっしゃっていました。

② 給食体験

③ 講話会

学校栄養職員、中学校家庭科教員、給食業者社長、給食業者栄養士さんから、子どもたちの「食」と「体」を家庭でどのようにサポートしていったらよいのかなどについてお話しいただきました。「体が温まる料理」「心が温まる料理」についてわかりやすく教えていただき、受験生を持つ親にとっては大変勉強になりました。

(2) 文教委員会 …… 講演会 (10月16日(火) 13:35~)

学校開放週間に合わせた教育講演会を開催しました。毎年著名な講師をお招きしている中、今年度は、FBCアナウンサー川島秀成氏をお招きすることができました。演題は、学校側の希望もあり、生徒に夢や希望を与えるお話をしていただきたいとお願いし、「初志貫徹～一度の人生を楽しむために～」となりました。川島氏がアナウンサーという職業を選ぶまでの経験、そして、今仕事を通じて感じていることを、中学生の



目線でわかりやすくお話して下さいました。今の自分をつくっているのは、これまでの努力・チャレンジ・経験・あきらめない気持ちがあるからこそ、という内容は中学生の心にも大きく響いたようです。講演の最初の方で、川島さんが架空の高校野球の実況中継を臨場感あふれる口調で行って下さり、会場は大喝采でした。さすがプロという感じで、これもいい思い出になったことでしょう。

(3) 広報委員会 …… 広報誌の発行 (年3回)

広報委員会の活動は学期に1回ずつの年3回の広報誌の発行です。本校のPTA広報誌は、昨年度の福井県PTA連合会の広報誌コンクールにおいて最優秀賞を受賞いたしました。

① 表紙やレイアウトなどの工夫点

表紙に関しては、1学期はオリンピックを、2学期はノーベル賞のメダルを、3学期は丸岡中学校生徒会の「和」をイメージして作成しました。レイアウトに関しては、生徒の顔写真をなるべく大きくし、保護者の方に喜んでもらえるようにしました。



② 内容について

- [1学期号] 会長・校長の挨拶、PTA活動の紹介、部活動の紹介、各学年の行事紹介（1年生は遠足、福祉体験学習、2年生は職場体験、3年生は修学旅行）、特集「丸中生の目と歯の健康」、生徒のボランティア活動の紹介
- [2学期号] 体育祭、文化祭、1・2年生のテーマ研修（1年福井市、2年金沢市）、特集「考えよう、いじめ」、PTA活動の紹介
- [3学期号] 卒業生クラス紹介、各学年行事（1年生は進路講演会、2年生は小学校訪問、3年生はスポーツ大会）、会長・校長・生徒会長の挨拶

③ 学校と家庭・地域社会との連携

6月に学校が行ったいじめに関するアンケートの結果をもとに、保護者に集まってもらい座談会を開催し、学校に対する要望や、家庭・地域としてできることを話し合いました。そして、アンケートの結果と座談会の様子を2学期号の特集記事としました。私たちのまわりにもいじめがあることを知ってもらい、学校と保護者と子どもたちで考え対処してほしいことや子どもへの教育の参考にしてもらうことなどをねらいとしました。

(4) 地域委員会 …… 資源回収（第1回6月24日（日）、第2回11月11日（日）8:00～）

PTA特別会計の大きな財源ともなる資源回収は、地域委員会の担当で、資源回収の準備・運営・後始末などを行っています。毎年2回、長畝公民館前駐車場をお借りして実施しています。集める資源は、新聞・雑誌、段ボール、ビール瓶・一升瓶、アルミ缶です。昨年度2回分の収益は70万円を超えました。



また、この資源回収には各地区の補導委員にもご尽力をいただいております、事前の案内のチラシの配布、当日の回収・運搬作業をお願いしています。地域委員の方の協力がなければ資源回収は成り立ちません。

(5) 総務委員会 …… 物品バザー、古城まつり総踊り、ブロック交流会

① 物品バザー（9月22日（土）10:30～）

毎年文化祭に合わせて行っており、「丸中バザー」として地元はもちろん、遠くは越前市などからも毎年のお越しいただいております。家庭に眠っている未使用の品物を集め、格安の値段で販売し、収益金は特別会計の財源となります。品物は、洗剤、台所用品、コップ、陶器、ティッシュ、タオル、カバン、体操服、制服、電気製品、食品とありとあらゆるものが集まってきます。



これにも、補導委員さんのご協力をいただいております、以下のような流れで行いました。

- ・夏休み（7月中） 補導委員が物品収集の協力依頼のチラシを配布
- ・8/25～9/3 補導委員が物品の収集および学校へ搬入
- ・9/1～3 執行委員と総務委員で物品搬入の受け入れ（種類別仕分け）
- ・9/11～14 執行委員と総務委員で値付け作業
- ・9/22 総務委員中心にバザー当日 待機行列の整理、売り子、レジなど

なお、本校のバザーの運営の仕方は、50人ずつ区切って入場してもらうという独特のやり方を行っています。20分でお買い上げいただいた後は必ず退出していただき、10分間で2回目用の品物を陳列します。これを3回くり返します。4回目以降は、「値引き市」、「半額市」、「持ってけ市」と徐々に値段を下げていくのも丸中バザーの伝統です。昨年度は約36万の売り上げがありました。

② 古城まつり総踊り（10月7日（日）17:00～約200名参加）

総務委員会が中心となり、古城まつりの総踊りに丸岡中学校PTAとして参加しています。これまでにおそろいのTシャツを作って着たこともあります。昨年度は、法被を入手し、腕には光るブレスレットして楽しく踊りました。また、提灯を業者で作成していただき、高々と掲げました。



③ ブロック交流会（12月1日（土）17:00～）

丸岡中学校区の4つのPTA（丸岡中、平章小、長畝小、高椋小）で交流を持つこの事業ですが、これまでの反省を活かして、昨年度初めて実行委員会を組織し、4つの単Pの代表が一堂に会して、交流会の持ち方について議論することができました。その結果、福井県生まれのニュースポーツ「スティックリング」を行い交流を深め、夜には懇親会を持つことが決定されました。4つの単Pみんな、スティックリングの準備・運営、懇親会の準備・運営の仕事を分担して進めることができました。当日は、丸岡中学校でスティックリングを（参加者45名）、料亭「ほんだ」で懇親会を行い（参加者30名）、両方とも大変盛り上がりました。



(6) 全委員会で …… 食品バザー（9月22日（土））

先述した物品バザーと並行して、食品バザーも行っています。これは、収益もありますが、文化祭でPTAが模擬店を開いて、生徒のためにバラエティーに富んだ昼食を用意してあげるのが大きき目的です。昨年度のメニューは以下のようになっています。収益は約11万円でした。



- 〔文教委員会〕 秋吉（純けい、若どり、しろ）
- 〔広報委員会〕 レタスハムサンド、卵サンド、ミックスサンド、ソーセージチーズパン、カステラサンド、ソフトアイスクリーム、おにぎり、お茶、ジュース
- 〔育成委員会〕 焼きそば、オレンジラスク、ちくわ天
- 〔地域委員会〕 フライドポテト、かき氷



3 平成25年度の活動について

(1) 基本方針 …… 「3Cの精神」

- ①チェンジ (Change) ②チャレンジ (Challenge) ③コミュニケーション (Communication)
- 運営方針 ……
 - ・毎年同じだからと言わず、新しいことに取り組む、企画をする。
 - ・利他の精神で行動する。
 - ・本当に正しいことなら必ず実現する。
 - （生徒のために正しいかを常に考える）

・そのために、生徒の問題を先生に届ける一助になる活動を行う。

(2) それを受けて

・絵本作家サトシンさんの講演会

文教委員会による講演会が6月7日（金）に開催され、学校開放週間ということで保護者の方々にも聞いていただくことができました。内容は、サトシンさん自身の絵本作家への大転身にまつわるお話や、実際に絵本をスクリーンに映しての読み聞かせでしたが、歌あり笑いありの大変盛り上がった講演会となりました。



・物品バザーの成功

校舎の改修工事の関係で、文化祭の時期に物品バザーをすることが困難とわかり、今年度の開催を見送ることも考えましたが、学校開放週間の最終日6月8日（土）に南校舎の空き教室を使って開催することを一大決心しました。物品バザーという大事業を発足したばかりのPTA組織で実現することが本当に可能なのか、と心配する声もありましたが、執行委員会、総務委員会、補導委員のみなさんのご努力と地域のみなさんのご協力で、大成功に終えることができました。



・育成委員会の試み

学校とPTAが協力して諸問題の解決に当たっていくための1つとして、丸岡中学校独自のメールボックスによる相談コーナーの開設が提案されました。生徒や保護者の問題や子育ての相談に対応していくのが目的です。この提案に対し、臨時の執行委員会が開かれ、個人情報の問題はどうするのか、不適切な書き込みがあるのではないかと、誰がどのように学校と協力していくのか、専門家に連絡を取る体制を作るとよいのでは、など熱い議論が交わされました。今後もさらに議論して、いいものを開設したいと思います。

4 おわりに

平成24年度の活動を振り返ると、それぞれの委員会を中心に、充実したPTA活動が行われたと思います。しかし、そこで満足してはいけなくて、と田本会長提案の本年度のスローガンが言っています。毎年同じことをすればよいのではなく、生徒のことを考えてどんどん新しいことをする、という事業がさっそく3つも行われました。25年度はまだ始まったばかりですが、この意気込みでこれからの事業もがんばっていききたいと思います。そして、「子どもと地域と共に歩むPTA（先生方と親）」を目指していききたいと思います。

【質疑応答と意見交換】 発表校 坂井市立丸岡学校PTA

質問 広報誌にいじめの特集を掲載したことによって、どんな効果がありましたか。

回答 今回の目的は、いじめの実態について知っていただくことが目的でしたので、何か効果をねらうというものではありませんでした。今年度は、昨年このことを踏まえて、悩みの相談などができるメールボックスを開設する予定です。

質問 給食体験会で行った講話会の中で、栄養士の先生はどのようなお話をされたのですか。

回答 資料にもあるとおり、受験シーズンということもあり、受験生の心と体を考えた料理についてのお話が多かったのですが、『おうちの方も忙しいと思いますが、お子さんと一緒

に朝食・夕食をとってあげて下さい。それが何より大切です。』とおっしゃったのが印象的でした。

質問 ブロック交流会に向けた実行委員会の持ち方やこれまでの様子と昨年度の様子についてお教え下さい。

回答 これまでは、丸岡中学校がブロック交流会の事務局ということもあり、いつも中学校が決めた内容を小学校の単Pに連絡し参加してもらおうという形で、小学校は受け身に回ってしまい、参加者も少なかったという反省がありました。そこで、丸中と3つの小学校の代表者が集まって交流会の内容について協議することにしました。いろいろな内容が出されましたが、その中からスティックリングに決定しました。経験者が多い丸岡中と長畝小がスティックリングの準備・運営を、高椋小と平章小は懇親会の準備・運営を、というように役割もうまく分担できました。準備などの面からも交流を図ることができたように思います。役割分担をしたことにより、参加意識も上がったと思います。

P T A 活動を楽しもう！

大野市有終東小学校 P T A みつば会

はじめに

有終東小学校は、36年前に出来た歴史としては浅い学校です。当時の有終西小学校、有終南小学校および下庄小学校の三校から、校区編成により集まってできた学校です。校区だけでなく、地区もまたがる学校ではありますが、それぞれの良いところを持ち寄って絆のある有終の名にはじない学校です。

1. P T A 活動を行うにあたってのテーマ

P T A の役員・委員にとっての悩みの一つとして、いかにして会員に参加してもらえる活動が企画できるかということがあげられると思います。我がみつば会でもその現状は同じです。そのような中で、今年度は参加している会員が P T A 活動を楽しむことで、会員みんなが意識を高め、活動に参加しやすくすることを目標にいろんな活動を展開しています。会員に興味を持たせるために行った様々な取組みを紹介します。


2. P T A 会員に興味を持たせる

活動に興味を持たせるため、活動の中に工夫を凝らしています。その一つとして行った P T A 総会について紹介します。

総会は、前年度の決算・活動報告や新年度の役員紹介・予算・活動予定などを会員に話す場ですが、みつば会においては、その後に各委員会の委員を決めます。委員になるにあたって、初めてする方は、どんな内容で行っているか何もわからず悩むことは当たり前だと思いますが、その悩みを少しでも解消するために、委員会での活動内容を紹介しています。プロジェクターを使用し、視覚的に紹介することで、P T A が何をしているか、委員がどのようなことをしているかを知る機会を設けています。以前ですと、口頭のみでうまく伝わらなかったり、わからずにそのまま何となく始めたりということが多かったのですが、見せることでその不安を解消することができました。

P T A みつば会 定期総会

- 各委員会の活動内容の説明と委員配置。
- “説明文”と“活動写真”をスクリーンに映写。
- 活動イメージがわき、理解も出来たと好評。
- “やらされてる”感なし



3. 地域との交流

はじめに紹介したとおり、有終東小学校は三校区からの集まった学校であるため、地域性としては、つながりの薄い学校と言えます。しかしながら、その絆を深める活動として、様々な取組みを行ってきました。その中から2年前から始めた「ワクワクみつばランド」について紹介します。

当時の会長は、地区がまたがり地域とのつながりが少ないことに対し、P T A として何かできないかと発案しました。地域をつなげる活動として「ワクワクみつばランド」が始まりました。まずは、地域からの外部講師を集めましたが、なかなか難しく、大野市の協力を得て生涯学習委員の派遣をお願いしました。また、世代間の交流を目的に、オープニングにおけるいとよ保育園のマーチングバンドや陽明中学校の吹奏楽、外部講師として奥越明成高校のボランティア部や大野公民館から高齢者教

室の方々をお願いしました。

今年は、オープニングに大野市のマスコットキャラクターである「うぐピー・うめピー」を招き、「PTA活動を楽しもう！」に沿った活動を行うことができました。たくさんの講師による様々な企画を行い、体験する子供の笑顔を見て「大変だった」から「やってよかった」と企画側も喜び、楽しんだ活動でした。

有終東小学校PTAみつば祭

「ワクワクみつばランド」号外

「ワクワクみつばランド」を終えて

PTA会長 中森 寛之

三日目となる今回も、たくさんの方々に協力いただき無事会場裏に設けることができました。今年度のみつば祭は「PTA活動を楽しもう」として始めた私としては、苦戦も多かったですが、たくさん楽しめました。

さて、オープニングから「勉の放課（くに）」にちなみ、うぐピー・うめピーがめじろが登場し、いとよ保育園マーチングバンドや陽明中学校吹奏楽部と今年も出陣いただき、みなさんも楽しめたのではないのでしょうか。各ブースでも、楽しい声や笑顔があふれ、企画側としても「やってよかった」と言える事業でした。

最後に、この事業は地域や世代間の交流を図るものとして、「子供たちのために」はじまったものです。この主旨を理解いただき、今後とも参加・ご協力賜りますよう、よろしくお願ひします。

開会セレモニー

東小PTA

発行/有終東小学校 PTA広報部
印刷/新日印刷

とんで、はずんで、スマイルボール

5・6年生の男子チームのあり余ったエネルギーに任置されました。5年生男女混合チームは、リズム感もあり軽やかにステップを踏み一緒に楽しめました。3年生男子は、まだ少し難しいかなと感じましたが、皆さん汗いっぱい頑張る姿が良かったです。ありがとうございました。

おまっ茶を楽しみましょう

茶道という日本の伝統文化にたくさんのお子さんの方が興味をもって一日体験をして下さいました。なれない正座や歩き方、こあいさつの仕方など大変そうではありましたが、季節の和菓子とお抹茶をいただき、楽しく過ごしていただけたと思っています。

手作り缶バッジ&しおり

毎年おみつば祭に出展させていたのですが、今年はしおりも販売し、子供の間で広がった以上に売れて大変でしたが、とてもお喜びがありました。来年はもっと子供の感想をうかがえるようにしたいです。

地域の先生に「入門」

大野・有終東小 ダンスなど体験

地域の先生役に招かれ、奥越明成高の生徒と一緒に体験イベント「ワクワク」も体育館に手作り体験コーナーを設けた。

和菓子店の教室は、団子やせんべいの原料となるうるち米もち米の選別、児童30人がグルグルとダンスのステップを指し、白玉団子の作り分け、科学実験、ダンス教室では、インストラクターがストリークダンスのステップを指し、お年寄りのやさしい指導で体験を勧めて、楽しみながら地域住民と交流を深めた。

有終東小PTAみつば祭という6年生の北川未歩は、陽明中吹奏楽部会が毎年開催している「つば祭」には、「いとよ保育園マーチングバンド」が出演し、講師や住民らが、各教室に12のブースを開いたと楽しいと笑顔を見せた。



ダンス教室でストリートダンスに挑戦する児童たち。大野市有終東小

4. いじめ問題への取組み

「いじめのない明るい学校づくり」は、児童、先生、保護者が一致団結して取り組んでいかなければならない大きな課題です。今年9月末には「いじめ防止対策推進法」が施行されました。そのような社会情勢の中、PTAでも何か取り組めないかということで、みつば会が行った取組みを二つ紹介します。

(1) いじめ対策学習会

いじめ防止対策推進法の公布により、いじめに対する保護者・先生の共通意識と理解を深めようと、学習会を開催しました。法第2条にあるいじめの定義では、被害者がいじめと認識すればそれはいじめであるとされており、どんな子でもいじめの被害者・加害者に成りうる事を認識して、いじめに立ち向うことを確認しました。グループ討議の場では、日頃からの悩みやいじめに対する意見が飛び交い、有意義な学習会となりました。また、先生方も参加されたことで、日頃話せないことや聞きたいことが聞け、保護者としてもよい機会となりました。

(2) 一途「トーク&ライブ」

前年度にも企画しましたが、今年度も鯖江市の3兄妹ソーシャルバンド一途をお招きして、いじめに関する「トーク&ライブ」で盛り上がりました。いじめに対するトークでは、参加者が真剣な眼差しで聞き入って、ライブでは一緒に口ずさんだり踊ったりと、楽しく・心癒される時間を過ごしました。



5. その他のPTA活動

どの学校においても、PTAの活動予算については悩める問題だと思います。会員が少なくなれば会費を上げたり、活動費を削減したりしなければなかなか活動できません。そのような悩みを解決するために始まった一つの取組みを紹介します。

(1) 資源回収の通年化

どの学校においても資源回収は行っていますし、年に1~2回の取組みによって、PTAの活動資金にあてていると思います。みつば会でもこれまで年1回の資源回収により得た収益をPTA活動費に当てていました。その活動を学校と連携することで、通年回収できる場所を提供してもらいました。この活動は、活動費の確保と日頃から会員が活動に取り組んでもらう機会の提供を行うことをねらいとしました。これにより、会費をあげることなく、今まで以上に子供のための活動をすることができ環境を得ることができました。



6. 終わりに

PTAの活動は企画を担当する側だけではありません。それを会員みんなに浸透させる取組みとして、みつば会は様々な活動を行っています。その思いを次へとつなげていき、楽しいPT

Aを作り上げていければと思います。



【質疑応答と意見交換】 発表校 大野市有終東小学校PTA

勝山市立成器南小学校PTA 谷口 氏

質問 PTA活動を楽しもうという正にそのままの発表であったと拝聴した。今年初めて会長になったばかりだと、最初が忙しいので、本当にできるのかと焦るだろう。自分自身も楽しんで取組みたいと思いながら聞いていた。地域と家庭と学校で教育をしようという話が、今日の発表だと思う。PTA活動に地域を巻き込む上での苦労は何か。また、講座の体験の仕方、全校児童が対象かどうか知りたい。

回答 地域の巻き込み方については、人のつながりで本校PTAとは別の活動、地域の活動を取り込む。私も、住んでいる地域では中保会に所属している。近くのいとよ保育園や陽明中学校の保護者にも働き掛けた。自らが楽しまないと大変だけで終わってしまう。PTA活動は楽しまなければならないと思う。毎年7月にPTA行事として「みつば祭」を行っている。その中の一つのメニュー、コーナーが「ワクワクみつばランド」である。「ワクワクみつばランド」には、約20の体験ブースがあり、地域の人材を活用している。体験の仕方としては、全校児童が、希望する講座を選択して体験する。学級ごとに小グループをつくり、グループ単位で回る。3交代で、2回は予約制、1回は当日自由に選択して回る。来校者も講座の定員に余裕があれば体験できる。

大野市開成中学校PTA 富田 氏

意見 本校の親に向けたテーマは、「学校へ行こう」である。学校祭には体育祭と文化祭がある。文化祭で「親の合唱」を行っている。生徒の文化祭に、親も合唱をして歌声を発表する。今年の文化祭に向けて練習中である。また、親のスポーツ大会としてインディアカをしている。鯖江のソーシャル兄妹バンド「一途」のライブも予定している。親が楽しめる活動を予定している。

勝山市立成器西小学校PTA 白木 氏

意見 西校では、学年行事として、親子でダンスをして、ヨサコイに参加している。また、自然学級にも親子で参加している。運動会では午後から地区ごとに競う。企画側が楽しむために、会議の時間を短くして情報交換の場を確保している。参加しやすい人の輪を作るように心がけている。地区行事と親、PTAとの間で無理なく行われていると思う。

家庭から地域へ

勝山市立荒土小学校 P T A

はじめに

P T A役員に自ら立候補した方は、どれだけいるでしょうか。「出来たら受けたくないな」と考える方が多いのではないのでしょうか。毎年、同じような活動の繰り返しでワクワク感が薄れているからかもしれません。私たちの活動を通して「どうすれば楽しく参加できるか」をテーマとして、一緒に考えていきたいと思います。

1 背景

私たちの活動を取りまく地域環境について説明します。当校区は、H 2 4 年度市政要覧によれば、市内で農家戸数が一番多く、耕地面積も市内の 1 8 % を占め、農業が盛んな地域です。農業の傍ら子供たちを見守る、そんな風土を育んできました。児童数も 9 0 人弱と少ないため、地区の方とも顔見知りである児童が多く、町全体で子育てを行う環境が整っています。

また、学校の方針にある「家庭や地域との連携」「健全な生活習慣づくり」に則して、家庭教育の充実・地域連携を強化すべく、私たち P T A は家庭という「点」の活動から、地域と連携した「面」の活動への展開を試みています。

2 P T A 組織

活動母体である P T A 組織について説明します。具体的な活動は、3 つの専門委員会（広報・研修・施設）が行っています。またこの他に、学級委員の代表者で構成される学級委員長会が挙げられます。この委員長会は、当 P T A の特徴といえるもので、後で説明する「家庭実践目標活動」のように、専門委員会の枠を超えた活動を担っています。この学級委員長会と各専門委員会が縦糸と横糸を織り成し、きめ細かな活動、柔軟な活動を可能にしています。主だった活動としては以下のものが挙げられます。

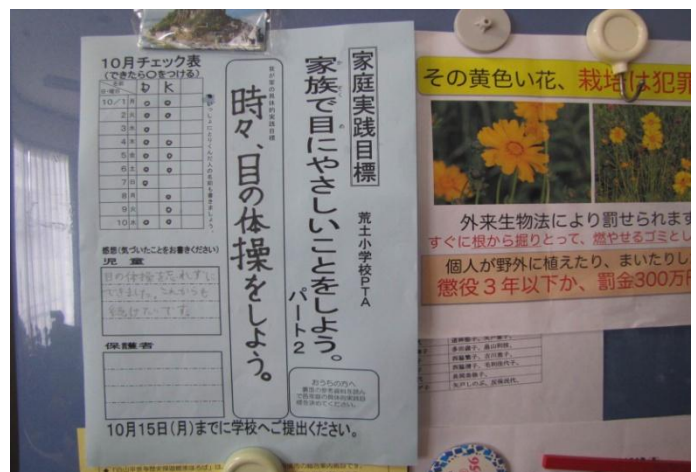
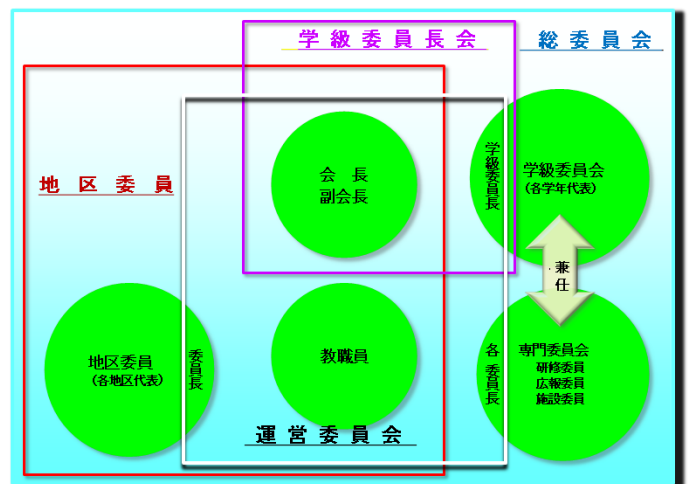
- 家庭実践目標 : 学級委員長会
- あいさつ運動 : //
- お話ランド : 研修委員会
- 広報活動 : 広報委員会
- 学校環境整備 : 施設委員会

3 事例紹介

(1) 家庭実践目標

最初は、P T A の「点」の活動である「家庭教育」の事例です。学級委員長会から生活習慣に関するテーマを提示してもらい、各家庭で具体的目標を定めて、親子で、1 0 日間取り組んでいます。

年に 2 回行われており、昨年のテーマは「家庭で目にやさしいことをしよう」でした。後日、



各家庭から実践の記録ならびに感想をいただいています。本活動は、PDCAサイクル（Plan計画 DO実践 Check評価 Action改善）の考え方を取り入れ、次年度の活動につなげています。

基本的な生活習慣の継続的实践を通じて、児童たちの気力が充実し、元気に登校してもらえたらと考えています。短期間の取り組みなので、明白な向上を期待することはできませんが、各家庭で生活習慣の見直しや目標への取り組み姿勢など、テーマに関する会話が生まれてくれればと期待しています。

(2) お話ランド

次は、「PTAによる学び」の事例です。読書の秋に「お話ランド」という読み聞かせの会を研修委員会が主催しています。

この会は、本の読み聞かせに留まるのではなく、保護者による日頃の研修成果を発表する場でもあります。どうすれば集中して聞いてもらえるか、如何に本に関心をもってもらうか、いわば保護者によるプレゼンテーションが何処まで通じるのか、腕の見せ処です。落語風にアレンジしたり、詩の朗読を音楽にのせる等、毎年趣向を変えています。この会には、昨年から当校卒業生を中心とした北部中学校2年生も招待し、合唱を披露してもらっています。



(3) あいさつ運動

これは「地域連携」の事例です。学級委員長会が主催しており、年に2回、1週間ずつ、各学年の学級委員と先生方が校門や交差点近くに立って行きます。躰的な意味より、むしろコミュニケーションのきっかけづくりが重要であると考えています。いつもお世話になっている見守り隊の方も御挨拶して下さい、たかが挨拶運動ではありますが、「保護者-教職員-地域」の三者による協力体制を象徴する姿がここに見出されます。

これまでの事例は、PTAによる校内活動の事例でした。さらに地元と連携して子育てを行っている様子を紹介します。児童と保護者が共に地域と交流を行い、体験を通じて様々なことを学んでいます。

(4) 町民ラジオ体操祭

荒土町が主催しており、校区内の各地区で行われている夏休みのラジオ体操を一日だけ学校に集まって行きます。児童や保護者ばかりでなく、幼児から高齢者まで数多く集まる良い機会になっており、児童を中心とした世代を超えたコミュニケーションの輪が広がっています。また、このイベントに併せてスポーツ功労者を表彰したり、地区別の集合写真を撮影しています。

体操の後には、みんなでグラウンドの草取りを行います。



(5) ぬるめがわ 温川 保全活動

昨年、現在の6年生が地元のふるさとづくり協議会の方とともに保全活動を行いました。この川は、冬には、文字通り、若干水温の高い伏流水がわき出ており、夏にはホタルも飛び交っています。ゴミ拾いや、外来種のコカナダモを取り除きました。

さらには、この川に自生しているバイカモという水性植物について、児童たちが夏休みに研究を行い、H24年度の「生き物百葉箱」という自然観察コンクールで最優秀賞をいただきました。地元の方々の協力あって実現したものです。児童たちの発信を受けて地元の方が関心をもち、ゴミを捨てないように注意する「地域とつながる」良い事例になりました。

(6) 炭焼体験



これも「地域の方による子育て」事例です。ふるさとづくり協議会が主催しており、毎年、5年生の児童たちが手伝いをさせてもらっています。学校の授業の一環として行われているため、残念ながら保護者の参加はありません。

この炭焼体験は、「あー楽しかった」で終わる、一過性のイベントではありません。将来の薪炭樹になる苗木を児童たちの手で管理し、山に運んで植樹するところから始めます。そして、あらかじめ切り出された原木を窯に並べ、出来あがった炭を取り出して大きさを揃

えます。「勝山歳の市」でも販売し、好評を得ています。苗木の管理から炭作りへと続く一連の作業を通じて、ESD「持続可能な発展のための教育」を身をもって体験し、資源は自然から奪い去るものでなく、自らも管理再生し、また最後まで有効利用することを学んでいます。

(7) 皿川活動

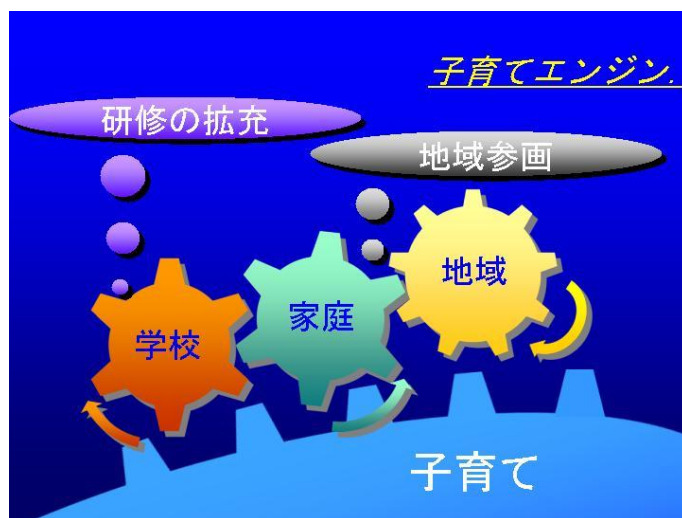
地区に流れている皿川での体験学習です。ふるさとづくり協議会や区長会、壮年会等が主体となって実行委員会を組織し、毎年、町をあげて活動しています。川の清掃ならびに生物調査、続いて鮎つかみ体験を行います。普段は児童だけでは入れない川に保護者と共に入り、草笛や草舟を習い、そこに住む魚や虫などの生物について地元の方々から教えてもらう活動です。座学ではなく、実体験をすることによって、楽しい感動とともに自分たちの地域について学びます。児童ばかりでなく保護者も、地域の方から昔の話を色々伺っています。

4 今後の展望

冒頭に「どうしてPTA役員をしたくないのか」と問いました。これまで事例を紹介したように、荒土小学校では、地域の力を借りて、学校・地域・家庭という三つのエンジンを利用した活動を行っています。PTAが潤滑油の役割を果たし、学校や地域に関わってエンジンをまわすのです。

そのためには、第一にPTA会員相互のコミュニケーションを円滑にする必要があるでしょう。保護者への研修を拡充し、主体的に参加したくなるような、保護者にとっても実り多い活動にしていく必要があります。第二に保護者により多くの事が学べるような、地域参加の機会を増やす必要があるでしょう。地域の方とのコミュニケーションの輪が広がり、経験も豊かになることでしょう。

このように「家庭から地域」へと活動を展開し、学校・家庭・地域を結びつけることによって、子供たちのために校内だけで活動するPTAから、保護者自身も児童と共に学び、参加しやすい、地域に開かれたPTAへと軸足を移す契機になっています。



これから、自ら役員をやってみようという人がひとりでも出ることを願って、次の人にバトンを渡していきたいと思います。

【質疑応答と意見交換】 発表校 勝山市立荒土学校 P T A

勝山市立成器西小学校 P T A 白木 氏

質問 学校に地域が関わる際、様々な年齢層があると思われませんが、壮年会、老人会や婦人会などの比率が万遍なくあるのか、それとも、壮年会などの若い力に頼るのかを教えてください。

回答 イベントにもよりますが、日常的な小学校との関わりは、区長さんなどの50才代以上の方が多く見られます。先ほどの発表で説明しました皿川での活動では、主として区長会に協力を頂き、実働的には壮年会・婦人会の方々の協力を頂いております。

勝山市立三室小学校 P T A 小倉 氏

質問 夏休みに1回、学校でラジオ体操を行って、多くの人に参加されていましたが、ラジオ体操の意識が薄れている傾向の中で、何か周知等をされたのでしょうか。

回答 小学校主催ではなく、荒土町主催で行っています。周知としては、町としての回覧、広報等で行っています。学校に対しては、保育園、小学校、中学生には学校からの案内チラシなどで周知しています。

また、会の目的としては、ラジオ体操をしましょうという事と、その後にグラウンドの掃除やゴミを拾いながら家に帰りましょうという事で、参加者に勝山市のゴミ袋を分けたりして、多少の参加メリット感を出しています。

勝山市立成器西小学校 P T A 白木 氏

質問 発表の中にワクワク感を出すために、研修という言葉がありましたが具体的な考えを教えてください。

回答 P T A活動は、毎年、ほぼ同じ事の繰り返しになっていると思います。そうすると、「またか」という感じになりますので、それを如何に変えるかがポイントになると思います。その時に新しいものを足していくために、荒土小では地元の人に参加していただくことで、知り合いが増え、新しい情報が入ったりして、今後の町の活動に繋がっていくような出発点になれるように考えています。

大野市富田小学校 P T A 松原 氏

質問 校外活動の中で炭焼き体験がありましたが、実際このような体験ができる事は楽しみだと思えます。実際 P T A が携わって感想を聞いたり、出来上がった炭を使って活動を行ったのでしょうか。

回答 この活動は、授業の一環として行っていますので、P T Aの中にはボランティアとして参加している人はいるかもしれませんが、基本的に P T A の立ち会いはありません。荒土町のふるさと協議会の方にお世話いただいております。ですので、P T Aの方に感想を聞いたりしておりません。炭の活用としましては、児童に一連の体験をさせていただき、出来上がった炭は児童が直接利用することはなく、町の方が販売等行っています。

大野市上庄小学校PTA 白崎 氏

意見 資源回収をおこなっていますが、各地区の区長さんにお手伝いを頂き、多くの資源を回収することができています。その収益については学校生活をより良いものにするため、グラウンドの遊具を整備したり、各教室に扇風機を取り付けたり、インフルエンザ対策として加湿器を置いたりしました。お手伝い的ではなく、子供たちがより良い学校生活を過ごすために必要なこととして活動させて頂いています。

勝山市立成器西小学校PTA 白木 氏

意見 地域との関わりでは、成器西小学校は、町の中心部に学校が位置し、校下の地域が分散されておりますが、勝山左義長祭りを中心にして 地域と学校が強いつながりをもっています。それに関わる方に指導して頂いたり、練習に地域の方やPTAの方に協力をして頂いています。先生方にも授業の中に左義長の歴史・伝統を盛り込んでもらって、地域との関わりを持つことを行っています。

「自ら立ち上がる保護者会を目指して」

～愛されて愛する子を育てるために～

光の子幼稚園PTA
保護者会 花*花会

はじめに

光の子幼稚園は、昭和43年に、日本キリスト教団・如鷲(じょしゅう)教会によって福井市日光町に開園され、「光の子らしく歩みなさい」という聖書の言葉から、光の子幼稚園と命名されました。

「愛されて、愛する子」を育てていきたいー、幼い命が、神様の愛、家庭の愛、園の愛に包まれて、やがて社会奉仕の精神に富む「人を愛する人」へ育ててほしい。私たちは、この幼稚園の願いと祈りに寄り添いながら、子ども達のために「自ら立ち上がる保護者会」を目指しています。



1 平成25年度の保護者会・役員構成

- (1) 会員数67世帯
- (2) 2才・年少・年中・年長クラスから各2名による役員8名(会長1名、副会長2名、会計1名、書記2名、交通安全やまびこ役員2名)
- (3) 各係(農園、運動会・クリスマス会、餅つき・絵本、お誕生会、光の子フェスティバル、アルバム・謝恩会、手芸)のリーダー7名
 - 役員は、前年度の内(*2才・年少の各1名は新年度)に、仕事、出産、家庭の事情や転勤など、お互いに配慮しながら、全員で支えていく気持ちで役員を選びます。
 - 係は、新年度、保育参観でお互いの子ども達、保護者同士が顔を合わせた後、各クラス懇談会を開き、自主的に立候補し、その後、保護者会総会を開いて、リーダーを決めていきます。

2 係の活動内容

- (1) 農園係：食育と収穫体験のため、さつまいもの苗植えと芋ほりのお手伝いをします。
5月中旬、畝にマルチ掛けをして、夏休みに雑草取り、芋ほり前に蔓取りをして、子ども達と一緒に収穫のお手伝いをします。



- (2) 光の子フェスティバル係：年に一度、在園児、卒園児が家族ぐるみで集まって、楽しくすごせる会を企画します。福井市社会福祉センターの体育館で、親子のふれ合い遊び、ゲーム、ママのフラダンスや、園長先生脚本のパパ劇など、親子で楽しく過ごすことを目的に、園と係が合

同で準備、開催しています。今年は、プロの人形劇団を呼んで、みんなで鑑賞し、ゲーム大会を行いました。保護者と幼稚園の一体感が感じられて楽しい一時です。



- (3) **運動会・クリスマス会係**：毎年10月、園の真ん前の日光公園において運動会を行っています。準備は公園の草取りから始まり、当日のテントの設営、音響、ライン引き、競技補助は保護者全員が一人一役担当し、運動会進行のお手伝いをしています。ママたちによるチアダンスの応援をした時もありました。開会式には、保護者有志によるスーパー・ヒーローが登場し、子どもたちの歓声が沸きあがります。クリスマス会は、毎年12月に国際交流会館にて行われる、キリスト教幼稚園としてのメイン・イベントです。オープニングでは保護者有志によるゴスペル賛美が行われています。子どもたちへのプレゼントは、係が買出しと包装を行い、当日は卒園児のパパにもサンタ役で登場していただき、子どもたちに満面の笑みが広がります。

- (4) **餅つき・絵本係**：食育と古くからの伝統行事を大切にし、在園児の祖父母の協力も得て、全園児が順番に小さな杵を持って餅つきをしています。係が一口サイズにし、きなこ、納豆、いそべ、大根おろし、あんこ、5つに味付けして、子ども達にお餅を配膳します。また、幼い時によい絵本に接することは心を暖かく包み豊かにするという考えから、園では毎週末絵本の貸し出しをしています。その絵本のカバー掛けや補修を行っています。



- (5) **お誕生会係**：毎月行われているお誕生会のうち、10月と2月の年2回、係が企画、演出を担当し、子どもたちを楽しませています。手遊びや劇、マジックショーなど多彩な出し物によって、各年の係の個性が光っています。



- (6) **手芸係**：クリスマス会の、2歳児クラスから年中クラスの劇の衣装作りを中心となって活動しています。その他、日常子どもたちが遊びで使う、ままごと用のスカートや布絵本などを手作りしています。

- (7) **アルバム・謝恩会係**：当園では、卒園アルバムを保護者が手作りしています。世界に1つしかない保護者の心のこもった素敵なアルバムが出来上がります。また、卒園式後の謝恩会の企画、準備、実施もしています。



- (8) **やまびこクラブリーダー**：やまびこ交通安全協議会、総会への参加をはじめ、交通公園や園内での交通安全に関する行事を手伝います。
- (9) **講演会**：役員で講師を選んで講演会を行っています。プリザーブドフラワー作りや、スクラップブック作りなど、楽しい手作り講演会や、小児科医の先生や、フィナンシャルプランナーの方を講師に呼んで、学びの時を持ちたりしています。
- (10) **年9回の資源回収**や、子ども達のために**人形劇**などの**観劇**の機会をもうけています。また「**さくらんぼクラブ**」という園企画の保護者の集いがあります。今年の第1回目は、ヨガの講師を呼んで、リラックス・ヨガを学びました。リフレッシュして楽しく子育てに向かい合えます。



3 サークル活動および、園・如鷲教会・教会学校との共同行事活動

- (1) **ソフト・バレーボール部「フラワーズ」**：県・市私立幼稚園協会主催のソフトバレーボール大会に第1回大会から継続して参加しています。ハーツカップや市の大会にも参加しています。



- (2) **ゴスペル・クワイヤ「KGCM-FUKUI」**：クリスマス会のオープニングで花*花ママがゴスペルを賛美したのがはじまりです。さらに**キッズ・ゴスペル・クラブ**ができて、園児、卒園児、さらに未就園児も参加して、保護者も一緒に、ゴスペルを歌っています。去年は、FBCテレビ駅中ライブや、第1回ふくいこども音楽祭など、地域のイベントに参加しました。
- (3) **ウクレレ・サークル「メレ・アイカネ」**：月2回ウクレレ好きが集まって、練習しています。湊さくら祭や、県の赤い羽根共同募金チャリティコンサートに出演しています。

- (4) 母の日合同礼拝：毎年、年長ゆりぐみが、母の似顔絵を描いて、プレゼントしています。また福井市カーネーション運動を活用させて頂いています。



- (5) ハロウィン・パーティ：仮装の子ども部門、大人部門、ファミリー賞と盛り上がっています。いろんなゲームコーナーや、去年は最後にジャックと握手して、「いい子でいる」と言えたら、お菓子がもらえるなど、光の子オリジナルで楽しんでいます。
- (6) クリスマス子ども会：教会学校、園児、地域自治会の子ども会と合同のクリスマス会を園舎ホールで開催しています。ゲームや賛美、クリスマス劇、サンタさんなど楽しくすごしています。保護者有志で飾り付けなどを手伝い、積極的に参加しています。



- (7) 花の日礼拝と地域訪問：毎年6月第2日曜日に、幼稚園でも花の日を守って、病院を訪問し、入院をしておられる患者さんに、皆が家庭から持ち寄ったお花をプレゼントしてお見舞いしています。これも教会から生まれた社会奉仕の行事で、教会学校では病院だけでなく、園近隣のひとり暮らしの高齢者の方のお家にお花をプレゼントしに行っています。
- (8) 未就園児クラス・スタッフ：光の子幼稚園では、卒園児のお母様方も園につながって、子供たちのために活躍してくれています。未就園児クラスの補助スタッフは、全員、卒園児の保護者です。光の子ピアノ教室でも、卒園・在園児のお母様が先生をしていています。



(9) 2才児クラスたんぼぼぐみに新しくできた行事「ぶどう狩り」

園では、2歳児クラスは発達の配慮から行事を少なめに設定していますが、ある保護者の方が「これぐらいならできますか？もし園側がよかったらどうですか？」と、園バスで5分の自宅でのぶどう狩りを提案してくれました。小さいたんぼぼぐみさんに、楽しい園バス体験とぶどう狩りの行事が加わりました。



おわりに

「子ども達のために」園と保護者が一つになる時、必ず子ども達の笑顔が増えていくと思います。保護者が積極的に活動していくためには、園と、園の先生方と一つになっていくことが不可欠です。もちろん、上手くいかないこともあります。子ども達が健やかに育ちますように、心も体も豊かに育ちますように、笑顔があふれますようにと、幼稚園と私たち保護者が、祈りつつ、力を合わせていく中で、必ず、明るく楽しい園になっていけると信じています。それが、私達の保護者会、花*花会です。



【質疑応答】 特になし。

「だいだいの願い」に込められた私達の願い
「ひろめよう大々的に」「ともそう橙色に」「つなごう代々に」
～三世代交流を目的とした松本まつりにおける「子ども」がつなぐ地区の絆～

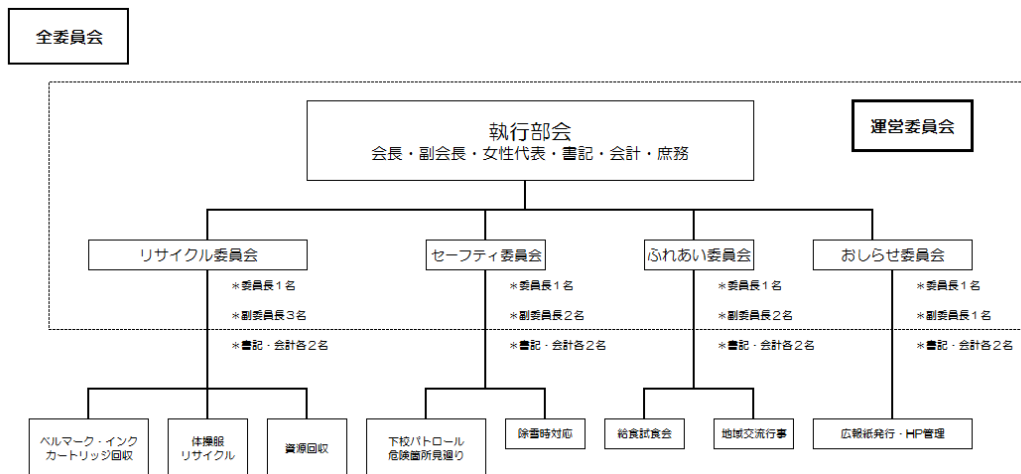
福井市松本小学校PTA

【はじめに】

松本小学校は、福井市の中心部の北部に位置し、「進んで学ぶ子、きたえる子、思いやりのある子、ゆめをもつ子」の育成を目指しています。また、2008年にノーベル物理学賞を受賞した南部陽一郎先生は本校の出身であり、自慢の一つです。

本校PTAは、昭和22年設立で、誕生してから今年で66年を過ぎました。毎年夏に行われている「校内清掃」と10月に開かれる「松本まつり」への参画が主な活動ですが、その他体力作りを目的とした「わいわいデー」という学年単位の交流行事を年1回行い、児童と先生と保護者の懇親を図るなど、さまざまな活動をしています。

しかし、役員のみならず手不足、部員数の偏り等、さまざまな問題が生じていた事実もあり、昨年度末には大幅な組織改革を行い、これまでの「6つの部」から「4つの委員会」に再編成しました。（詳細は下記のとおりです）簡単ですが、新しくなった各委員会の活動内容も紹介させていただきます。



執行部

会長1名、副会長4名を含めた総勢20名で活動しています。毎月1～2回「執行部会」を開き、毎回教頭先生にもご出席いただき、意見交換を行っています。

リサイクル委員会

リサイクル委員会では、年3回の資源回収、年間を通しての「ベルマーク」「インクカートリッジ」の回収に加え、「体操服のリサイクル回収、販売」を行っています。ここであげられた収益は大切な活動資金となっています。

セーフティ委員会

セーフティ委員会では、子ども達の安全を守るための活動を行っています。子供たちをあらゆる危険から守るため、地区内の公園の樹木の伐採を市に依頼したり、「下校パトロール」「付き添い下校」を行ったり、昨年度は初めて積雪時の児童の通学路の安全確保のために登校班別除雪担当を決める等、対策を行いました。

ふれあい委員会

ふれあい委員会では学校で行う催しものの企画、運営を行います。主なものとして年1回の給食試食会や地域交流事業です。給食試食会の際には、食の講演会や給食センターの見学などを行いました。地域交流行事としては、昨年度は明道中吹奏楽部、藤島高ジャグリング部による発表、過去には地元進明中吹奏楽部の演奏、元校長先生による「サイエンスショー」などを行いました。

おしらせ委員会

おしらせ委員会では年2回の広報紙発行を行っています。3月に発行したものではありませんからお預かりしている会費の使途説明をしました。また今年度からはHPを立ち上げました。

【松本まつりについて】

3年前の東日本大震災で改めて見直された「地域の絆」。

古くから住んでいる人が多いわが松本地区でも、残念なことに最近「近所づきあい」が希薄になりつつあります。そんな中、松本まつり実行委員会主催の「松本まつり」が毎年10月末、2日間にわたって開かれています。このまつりは「三世代交流」を目的とし、松本地区のカラーが「橙色」ということから、テーマを「だいだいの願い」、サブテーマを「ひろめよう、大々的に!」、「ともそう、橙色に!」、「つなごう、代々に!」としています。

わがPTAでは昨年度は5つの事業を行い、その中の一つ「不死鳥with松本っ子」という企画で、子ども達が地区を回り、地区の方の「願い」を集め、「つながり」を深めると同時に、この問題に一石を投じました。

また、当日は運営する実行委員会メンバー、地区団体メンバー全員がお揃いのオレンジTシャツを着用し、まつりを盛り上げました。



ここで昨年度行った5つの事業を紹介します。

(1)「前夜祭」



まずは前夜祭です。3年前初めて、校庭でのキャンプファイヤーを行い、好評だったため、昨年度も実施しました。

そもそもキャンプファイヤーは、①「東日本大震災」をきっかけに電気に頼りすぎの現在の生活を見直し、改めて「火」の大切さを見直そうということ、②キャンプファイヤーを通して、世代を超えた参加者同士の親睦を深め、一体となる楽しさを体験しようということ、③その交流を通して地域の絆を強め、翌日のまつりに挑もうということで企画しました。

アトラクションとして、福井農林高校郷土芸能部による壮大な和太鼓演奏と、鯖江市出身の兄弟ユニット「一途」によるコンサート

を行いました。

心臓にまで響く力強い和太鼓の音に魅せられたり、参加者が一体となって歌を歌ったりと、楽しい時間を共有しました。

また、火の周りには不思議と人が集まり、特に炎を見つめる子ども達の目がいきいきしていたことがとても印象的でした。日頃は危ないからとなかなか触れることの出来ない「炎」ですが、身近に感じることで「火」の大切さを再認識し、子どもたちにとっても貴重な体験になったと思います。

(2)「まつもと愛グルメ選手権」

次に、「まつもと愛グルメ選手権」です。

地区内の団体や店舗17店が出店した「まつもと愛グルメ選手権」に、わがPTAも「愛情たっぷり焼きそば」で出場しました。「PTA＝“焼きそば”」という伝統があり、昨年度は「ソース味」と「カレー味」の2種類を準備しました。前日の材料の下準備や、当日は休憩なしの調理という、とてもハードなものでしたが、合計419食という他団体を寄せ付けない圧倒的な販売数をあげました。

(3)「まつもとクイズ王決定戦」

次に、「まつもとクイズ王決定戦」です。

まつり当日に希望する人全員が参加出来る方式で行い、当日は世代を超えた120名以上の方が参加してくださいました。松本小学校や松本地区、加えて福井市に関する問題を準備し、1回戦20問

で2回戦行いました。用意された豪華賞品を目指して白熱した戦いが繰り広げられ、2回戦とも児童が優勝賞品を持ち帰りました。



(4)「ゲームコーナー」

次に、ゲームコーナーです。

これまでもゲームコーナーは行っていましたが、昨年度は初めて6年生の希望児童と一緒に、企画から行いました。ゲームの内容は「スマートボール」「宝さがし」「スリッパとばし」の3つに決定し、準備物の制作、当日の店番等、大活躍してくれました。大人との協働だったため打合せ時間の調整に手間取る等、大変な部分もありましたが、子ども達は楽しんでやっていたので、結果的にはとてもよかったと思います。

(5)「不死鳥with松本っ子」

そして最後に「不死鳥with松本っ子」です。

これは福井市教育委員会の補助事業である「地域教育力活性化事業」として行いました。この事業には①「地域との協働推進（地域の行事にPTAが共催）」、②「地域と連携する場（PTA行事・活動に地域も参加）」、③「中学生の地域参加」という3つの目的があり、地域の子どもは地域全体で育てる、子どもが地域の一員であるという自覚が育つような事業推進にPTAが一翼を担うということで、この企画を計画しました。

まず、PTAが3メートルの立体不死鳥の制作を始めました。執行部内でデザインを募集し、そこから一つ選び、模型を作りました。それにそってベニヤ板で型を取り、土台を作りました。そして羽根型の短冊に願いを書いてもらったものを集め、それを貼って完成させることにしました。集める「願い」はまつりの目的の「三世代交流」から、3, 3 3 3枚に目標を設定しました。

松本小の6年生児童8人と「不死鳥実行委員会」を組織し、8月22日に第1回目の実行委員会を行いました。ここで願いを書くための短冊を作ったり、宣伝用のポスターを製作しました。当日は、福井新聞社の取材も受けました。

それと並行して、地域の「願い」を集め始めました。まず7月末に行われた地区の納涼祭でPR活動を行いました。日を改めて公民館に出向き、公民館講座のみなさんに宣伝し、協力をお願いしました。

また、グランディア芳泉で行われた地区の敬老会にも出向きました。当日はサイクルトレインに乗って出かけ、出席者の皆さんと食事をしたり、話をしたり、温泉に入ったりして、楽しいひとときを過ごしました。

地区内の福祉施設にもおじゃましました。ご協力いただいた3カ所のデイサービスを回り、その中の一つではお彼岸のおはぎを御馳走になり、みなさんからの熱い「願い」をいただきました。

また地区内の保育園に、不死鳥をおみこしにのせて出かけたり、校区内の進明中学校にもご協力いただきました。今ではその子ども達が進明中の生徒になりました。

こうした子ども達のがんばりのおかげで、目標



以上の3, 367枚が集まりました。「願い」には世界平和や健康、高校合格を願うものから、地区の子どもたちと触れ合う機会が欲しいといったものもありました。

そして、集まった短冊を色ごとにわけ、黄、赤、オレンジの3色を1セットにし、それを不死鳥に貼って完成させました。

また宣伝活動として、ラジオやTVに出演し、まつりを盛り上げるために一役買いました。そしてまつり当日、子供たちとの活動状況を、模造紙、DVDで報告し、完成品を披露し、最後に、参加した地区のみなさんと記念写真を撮影しました。

最近の子ども達は塾やスポ少活動など多忙ですが、8人は都合がつく範囲で活動に参加してくれました。子どもと共に活動するのは初の試みでしたが、私達が想像していた以上に力を発揮してくれました。

またいろいろな方法で宣伝したことで、地区のたくさんの方が応援してくださり、それが子ども達のやる気へとつながりました。はじめは恥ずかしそうにしていた子ども達も、しばらくするとどんどん自分から話しかけていました。またそれに答えてくださる方の目はとても温かいものでした。

この企画を通して、いろいろな世代の方と触れ合い、それをきっかけに顔見知りになり、挨拶をすることで、子ども達にたくさんの方の「目」が向くことが、子ども達の安全確保にもつながると思います。またいろいろなところを訪問したりすることで、子ども達が自分の住む地区に興味を持ち、好きになり、地区のいろいろな活動にこれから積極的に参加してくれたらいいなと思います。

このまつりは地区内のいろいろな団体も参加し、来場者数も年々伸びています。わが校のPTA活動としてもこのまつりへの参画が最大の事業で、これに向けて毎年5月頃から準備を始めます。たくさん子ども達が楽しみにしていることもあり、われわれPTAの担う部分は大きく、正直、役員の負担は決して小さくはありませんが、子ども達の喜ぶ顔を思い浮かべながら頑張っています。また、子ども達のおかげで、我々大人もいろいろな経験ができ、成長させてもらえたのも事実です。そして何より、終わったあとには心地よい疲労感と充実感を味わうことが出来る、これもこのまつりの醍醐味です。

このようにいろいろな形で子ども達が地区とのつながりを持てる場を準備し、支援することもPTAの存在意義の一つであると思います。私達PTAはこれからも「子ども達とともに、子ども達のために」活動していきたいと思っています。



【質疑応答と意見交換】 発表校 福井市松本小学校PTA

福井市明倫中学校PTA 五十嵐 氏

質問 不死鳥の今後について

回答 職員玄関に展示後、卒業式にも出席した。現在は教室にある。

質問 本年度も収集するということか

回答 1年目はジャンボアート、去年は不死鳥。毎年違う。今年度は未定。地域とつながる活動をしたいと考えている。

質問 キャンプファイヤーの予算

回答 廃材を提供してくれた人がいたので、材料費はほとんどかかっていない。

福井市美山中学校PTA 山口 氏

意見 美山地区は地域のつながりが強く、田舎である。

美山中を地元の人がとても支援してくれている。中学校では生徒が地元の従来からの行事の参加を促すとともに、地域の人を文化祭や体育祭に招くことで地域とのつながりを持っている。

母校訪問駅伝大会が残しているもの

福井市足羽第一中学校 P T A

はじめに

平成25年10月23日、澄み渡る秋空のもと、足羽第一中学校・母校訪問校下一周駅伝競走大会（母校訪問駅伝大会）が無事開催されました。当日テレビでのローカルニュースや、翌日の新聞等でその様子や記事をご覧になられた方も多いかと思います。これら報道は例年この時期に必ず行われております。なぜなら、この母校訪問駅伝大会は本年度で第48回目を数え、足羽第一中学校にとって恒例行事と言うより、もはや伝統行事と言って過言ではない行事であるからです。半世紀近くにわたり、継続してこのような大会が開催される背景として、如何なる要因があるのか説明します。なお以下に記す内容は、本年6月29日に開催されました平成25年度福井県幼・小・中 P T A 活動地区別（福井・永平寺地区）研修会にて発表した内容を基本に構成しております。

1. 福井市足羽第一中学校の沿革、および概要

2006（平成18）年2月、いわゆる平成の大合併で旧美山町、旧清水町、旧越廼村が福井市に加わりましたが、それ以前に福井市の中で最後に加わったのが、現在の足羽第一中学校の校区である旧足羽郡足羽町になります（1971（昭和46）年9月）。更に遡ると、この足羽町も、現在の小学校および公民館区である、酒生、一乗、上文殊、東郷、文殊、六条と、それぞれ各村として存在していたものが1955年3月に合併して成り立ったことが由来となっております（合併当初は足羽村、1960年に町制施行）。

足羽第一中学校は、かかる合併以前の1949（昭和24）年に創立しました。また1957年には東郷中学校と合併して1村1中学校となり、1971年には福井市足羽第一中学校として現在に至っております。このような成り立ちにより、校区内に6つの小学校があるという形態となっています。本年6月時点の生徒数は346名、教職員数は33名、P T Aの会員は312名です。

【足羽第一中学校全景】
田園風景が広がる福井市
東部(福井市稲津町)に
位置し、北に足羽川、
南西には文殊山を仰ぎ見る
落ち着いた環境にある。
中央から右下に走るのは
越美北線。





【足羽第一中学校と校区小学校の位置関係】

地域では「足羽一中」(あすわいつちゅう)と一般的に呼ばれている。

各小学校、公民館はほぼ足羽一中を取り囲む

ように存在しており、生徒の通学はほとんどが自転車により行われている。

また、校区には歴史ある一乗谷朝倉氏遺

2. 母校訪問駅伝大会の概要

正式名称は「母校訪問校下一周駅伝競争大会」と呼ばれ、第1回大会は1966（昭和41）年10月15日に行われました。第1回大会のポスターは現存しており、これによると「母校訪問町内一周学級対抗駅伝競走大会」と記されています。なぜ、この駅伝大会が始まったのかは詳らかではないのですが、体育の日（同年10月10日から国民の休日として設定された）ことを記念として、また1968（昭和43）年に福井国体を開催するにあたり、各自治体ごとにスポーツ行事を興隆させる目的として（旧足羽町として）実施したという説もあります。

内容としては、足羽第一中学校をスタートとして酒生小学校、一乗小学校、上文殊小学校、東郷小学校、文殊小学校、六条小学校の6校を通過し、再び中学校へゴールするというコースを、駅伝（たすきリレー）形式により各学年各学級（本年度は各学年4クラス毎の計12チーム）で競走するというものです。コースの総延長は31.2kmあり、これを男子女子それぞれ10区間ずつ全20区間に分けてリレーを行います。1位となるチームは、このコースを約2時間でゴールします。



【駅伝行程】

2km以上走る区間もあれば、1km未満の

短い区間もあり、生徒たちは、だれがどこを

走るか、また各出身小学校を配慮したコース決めを事前に行う。

酒生地区の遺跡群、歴史ある旧朝倉街道と

いった山越えの難所、東郷地区堂田川沿

【趣旨】 地域の方々の多大な援助、協力のもと、体育の日を記念し、母校を訪問して、体力増強と忍耐・努力・根性の精神の向上をはかりスポーツマンシップおよび母校愛・郷土愛を養成するものである

【主催】 足羽第一中学校、足羽第一中学校生徒会

【後援】 校区小学校（酒生小、一乗小、上文殊小、東郷小、文殊小、六条小）、校区公民館、自治会連合会、防犯隊、交通安全協会
足羽第一中学校PTA、足羽第一中学校珠峰会（卒業生の組織）

3. 母校訪問駅伝大会の運営

大会運営では、中学校、PTAの保護者だけでなく、各校区の公民館、自治会連合会、交通安全協会、防犯隊の方々の協力を得て実施いたします。公道を走るということもあり、警察、駐在所および福井市からの交通指導員の派遣による危険箇所での交通整理、またパトカーの先導もいただいております。また訪問先である6小学校では中継点を兼ねることもあり、各校児童やお世話になった先生方との交歓会を行うなど小学校からの協力も欠かせません。また、コース沿いでは地域の人たちからの横断幕も掲げてまでの応援風景が見られるといった特徴もあります。走者には温かい声援も贈られ、また絶対の安全に見守られながら全力を尽くすことができるよう配慮をいただいております。

【大会実施までの取り組み】

9月・・・地区実行委員会の開催、各小学校、公民館、自治会連合会、警察、駐在所、交通安全協会、防犯隊、交通指導員への協力依頼（中学校、PTA、珠峰会より）

10月・・・審判員配置場所作成、協力へのお願い文書作成（PTA）
ポスター掲示依頼、試走（生徒）
危険箇所の確認、マスコミへの連絡（中学校）

当日・・・先導者誘導、各中継点での手伝い（中学校、生徒、PTA）

駅伝大会当日は、中学校の先生方は事故のないようそれぞれの配置場所において生徒への注意を払い、またランナーではない生徒たちも自転車による伴走者、中継所審判員、記録係などの役割と責任を果たすべく、一生懸命取り組んで頑張っています。

4. 母校訪問駅伝大会に対する思い

この駅伝大会が半世紀近くにもわたり継続して行うことができている理由を掘り下げます。最初に、先生方の思いとしてのキーワードを列記します。

「大会の安全」、「伝統の引継ぎ」、「地域・家族への感謝」、「生徒たちの成長」、
「クラスの絆づくり」、「愛校心の育成」

長年続く、母校訪問駅伝大会でありますが大きな事故等は発生したことはありません。生徒に対して安全第一の思いで、事故のないよう細心の注意をもって取り組み、またこれを継続しているのです。安全に行うことも重要な伝統の引継ぎです。

ここで、生徒に対して行った母校訪問駅伝大会へのアンケート結果を掲載します。

1. あなたの学年、組、性別を教えてください。														
年 組	男				女									
1.この駅伝大会は大変大事な行事だと思いますが、どの程度大事だと思いますか？(1つのみ回答)														
	1年生				2年生				3年生				合計	
・大変大事	14	20	15	17	11	18	11	16	14	20	13	13	182	55%
・まあまあ大事	14	9	9	6	6	4	3	7	7	6	7	11	89	27%
・大事	2	1	6	8	6	4	7	1	8	3	9	4	59	18%
合計	30	30	30	31	23	26	21	24	29	29	29	28	330	100%
2.どのように大事だと思いますか？(1つのみ回答)														
・伝統がある	25	26	28	28	19	18	20	19	24	21	26	22	276	85%
・参加した時に得るものが多い	4	2	2	2	4	5	0	5	4	7	2	5	42	13%
・その他()	0	0	0	0	0	3	0	0	1	1	1	1	7	2%
合計	29	28	30	30	23	26	20	24	29	29	29	28	325	100%
3.今年の第48回大会に参加したいですか？(1つのみ回答)														
・“選手”として参加したい	14	17	15	9	12	19	17	22	19	26	21	23	214	66%
・“伴走者”として参加したい	11	6	12	10	3	0	3	1	5	0	4	2	57	18%
・“審判員”として参加したい	5	6	3	6	8	7	1	1	4	3	4	3	51	16%
合計	30	29	30	25	23	26	21	24	28	29	29	28	322	100%
4.参加した場合のあなたの目標(目的)は何ですか？(1つのみ回答)														
・最優秀賞(全学年の1位)	13	10	4	4	8	14	10	16	18	21	25	20	163	50%
・学年賞(各学年の1位)	13	11	17	21	14	6	5	3	5	3	2	6	106	33%
・区間賞	3	8	8	5	1	6	6	5	5	5	2	2	56	17%
合計	29	29	29	30	23	26	21	24	28	29	29	28	325	100%
5.上記の目標(目的)を達成するためにいちばん必要なことは何だと思いますか？(1つのみ回答)														
・個人の努力	2	9	6	8	5	5	4	3	5	10	9	6	72	22%
・チームワーク	28	21	25	22	17	20	16	21	23	19	19	22	253	77%
・その他()	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	1%
合計	30	30	31	30	23	26	20	24	28	29	28	28	327	100%
6.駅伝大会を通して自分たちが得たいもの(残したいもの)は何ですか？(複数回答可)														
・楽しさ	18	11	6	13	17	16	12	10	13	19	15	18	168	51%
・体力増強	18	12	18	14	6	17	11	10	8	13	7	12	146	44%
・忍耐力アップ	12	6	10	7	6	11	9	7	9	11	3	5	96	29%
・スポーツマンシップ	8	3	2	4	2	8	3	4	3	6	3	4	50	15%
・母校愛・郷土愛	11	10	13	8	3	11	6	4	5	8	3	7	89	27%
・クラスの団結力	28	22	24	28	20	24	13	15	25	26	24	27	276	84%
・友人ともっと仲良くなりたい	15	2	7	5	3	12	7	5	12	12	7	15	102	31%

最後の質問は複数回答ですが、クラスの団結力を大切にしたいという気持ちは当然のことながらも、地域の方々への感謝の心というものが3割以上の回答があり、この駅伝大会が生徒たちにおいても足羽第一中学校の校区に根ざした行事であることを意識させていると考えられます。

最後に保護者の声です。これもキーワードにしてまとめると次のようになります。

「わが子の成長、感動」、「伝統的行事の継続」、「親子のコミュニケーション」

「地域の協力への感謝」、「勉学への好影響」、「ふるさとへの誇り、自慢」

当校ではこの大会終了後に、この駅伝大会を特集した広報誌や学校だよりを発行するのですが、毎年保護者から感動、感激したとの声が寄せられます。勉学への好影響というのは、毎年10月のこの大会が終わると、3年生にとっては受験勉強などにけじめをつけて取り組んでいくというものもあるようです。また、生徒が走行区間を下見する目的で両親とそのコースを試走するなど、親子のコミュニケーションとして良い機会になることもあります。

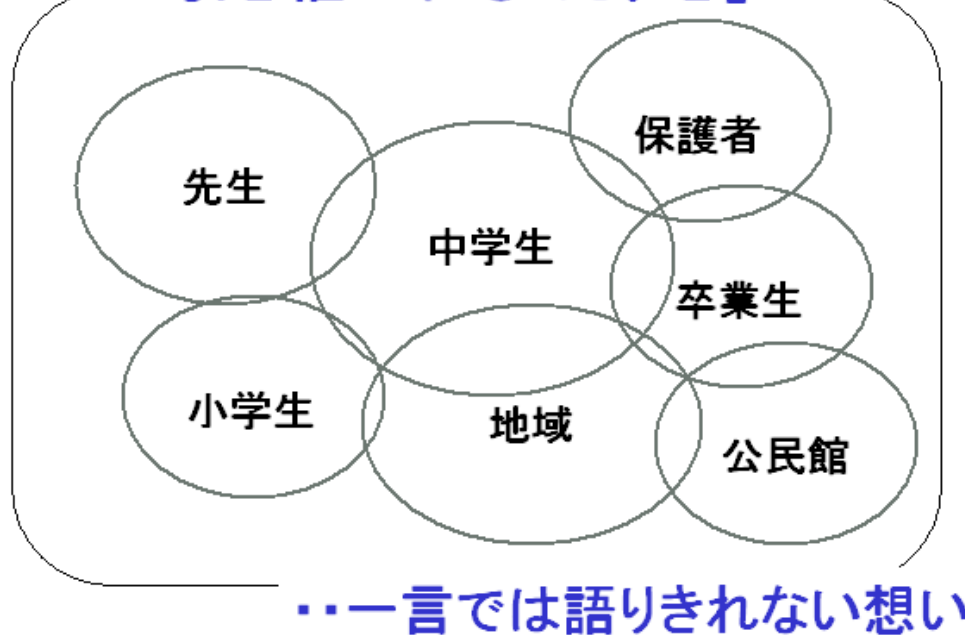
5. 地域にとっての母校訪問駅伝大会とは ～多くの想いを「たすき」に込めて～

前項で述べた広報誌は、足羽第一中学校の校区の全世帯へ公民館を通じて回覧されます。地域の大人は、過去の自分自身の楽しかった中学生時代の記憶と重ねながら応援していきます。先に公民館はじめ地域の各種団体からの絶大なる協力をいただいていると述べましたが、その方々の中には、実際

にこの駅伝大会に参加した経験がある方も大勢いるのです。

(まとめ) 母校訪問駅伝が残しているもの

引き継がれる「たすき」



小学生は近い将来、自分たちが走る姿を思い描きながら応援します。主人公たる中学生は、クラスの団結、チームワークの大切さをこの駅伝大会を通じて学んでいきます。まさに、成長に不可欠な要素であると言えるでしょう。

まもなく50回目を迎えるこの伝統ある駅伝大会は、時代の流れとともに中学生から親となり、やがて地域の一員として応援する立場となって関わり続けることができる素晴らしい大会です。それはまさに、たすきを次のランナーに渡すということだけではなく、様々な想いをたすきに込めて、時間の流れもつないでいく「伝統のたすきを渡す」ということなのです。

この母校訪問駅伝大会は、地域に根ざした取り組みとして、足羽第一中学校最大のイベントであり、今後も地域に見守られながら継続していきたいと思えます。

【質疑応答と意見交換】 発表校 福井市足羽第一中学校PTA

福井市鷹巣小中学校PTA 丸山 氏

意見 鷹巣小中では、長橋小と合同で、年二回<砂浜マラソン>を行っている。砂浜を走るの、負荷が3倍かかるが、小・中で距離を調整している。夜は疲れてすぐに寝てしまう。子供たちによると、地域の方の応援のおかげで走ることができる。これからも、地域の方と一緒に、引き継がれていくようにしたい。

家庭・地域・学校の連携による活動

～地域を愛する子どもたちを育むために～

越前町立朝日小学校PTA

1 はじめに

越前町は、福井県嶺北地方の西部に位置し、海や山など豊かな自然に恵まれた人口23,000人の町である。古くより「越前焼」や「幸若舞」の伝わる文化的・歴史的に恵まれた地域でもある。

朝日小学校は、明治27年に創立され、現在児童数469名、学級数16学級、教職員34名の町内では一番規模の大きい学校である。「あかるく つよく あたたかく」の学校教育目標のもと、日々の教育活動に取り組んでいる。PTA会員数は、342名、本部役員、総務委員会、保健体育委員会、安全補導委員会、広報委員会、学級委員会、母親委員会、地区補導委員会、監査員で構成されている。学校と家庭と地域が一体となって、子どもたちを見守り育てている。

2 PTA組織と活動のねらい

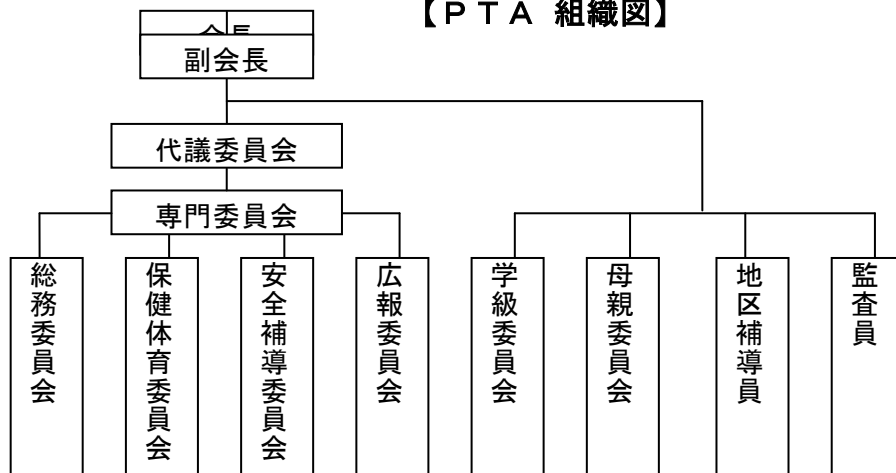
本部は、組織の中心となり各会議の企画運営や県・町PTA連合会活動への参加を行っている。各地区代議員25名は、4つの専門委員会に配属される。

PTAの活動や企画や運営を行う「総務委員会」、体育大会への協力や健康づくり運動の啓発を行う「保健安全委員会」、地域の通学路や危険箇所の点検を行う「安全補導委員会」、広報誌の制作・発行を行う「広報委員会」がある。さらに、「学級委員会」、「母親委員会」、「地区補導委員会」、「監査員」で構成されている。

活動の主な目的は、次の2点である。

- (1) 保護者と教職員が一体となって、児童の福祉の増進、心身の健全な発達、教育的環境の整備を行う。
- (2) 活動や関わりを通して、保護者同士、保護者と教職員、地域と教職員の相互理解を深める。

【PTA組織図】



3 主な活動内容

(1) 資源回収

総務委員会が中心となり、毎年5月に学校区7地区の資源回収を行っている。リサイクル資子どもたちが保護者と一緒に回収することで勤大切さを知り、環境に対する意識の向上が育まいる。また、子どもたちが、地域の一員として覚や責任感が培われることも期待している。

各地区で出された、新聞・段ボールのリサイクル資源を、子どもたちと各地区の代議員・補導委員がトラックに積み込み学校の駐車場まで



内1
源を
労の
れて
の自

【親子で資源回収・佐々生地区】

運搬する。駐車場では、待機している地域のボ

ランティアの方により、フォークリフトでコンテナ車に積み込まれる。今年は、総重量80トンが回収された。

保護者の方からは、積極的に活動する子どもたちを見て、「ありがとう。お父さんやお母さんになっても、また頼むね。」という気持ちでいっぱいであったという感想をいただいた。

児童も保護者や地域の人たちと一緒に働くことの楽しさを感じ取り、周りの人たちの大きな協力や支援によって支えられていることを知ることができた。これは、大きな成果だと言える。

しかし、児童の参加の少ない地区もあり、活動の目的を保護者の方に理解していただきながら、安全に活動ができるように配慮していきたいと考えている。

(2) 親子体育大会

毎年9月に開催される体育大会は、子どもと家族・地域をつなぐ大きな行事で、PTAの専門委員会の一つである「保健体育委員会」が中心となり、学校と協力しながら親子競技・PTA競技・子どもと祖父母との競技などを計画していく。

取り組みとしては、家族や親戚、地域へのお年寄りへの招待状を全校児童で書いて送る。そして、来られたお年寄りの方は、設けられた専用のテント席で観覧していただき、玉入れ競技や地元のあさひ音頭を全校児童と一緒に楽しんでもらっている。

「家族で取り組む、早寝 早起き 朝ごはん」は、全国で行っている取り組みである。地域のみならず全員に、家族の健康について考えてもらえるように啓発活動を行い、親がリズムある生活習慣のお手本になってもらえることを願っている。

また、5、6年生の子どもと徒競走(150m)を走りたい保護者を大会前に募集し、親子でレースを楽しんでいる。保護者同士の綱引き競技も行われている。そして、1年生と6年生は親子と一緒に楽しむ親子走を行っている。親子の親睦を深め、体育大会の思い出作りと子どもの成長を実感してもらうよい機会となっている。

このような競技や活動を通して、子どもと家族・地域、地域の人同士のつながりがどんどん強くなっていくのが見えてくる。保護者や地域の方からは、「子どもたちの元気いっばいに走る姿や係活動、PTA役員の方の熱心な協力・応援に心が熱くなる思いでした。」という感想もいただいた。

成果としては、子どもたちのリーダー性が高まり、大会運営、競技運営、応援の責任者として活躍したことである。次に、子どもたちが地域の方や保護者の方とのコミュニケーションが積極的に取れたことも成果の一つであった。そして、代議員や保健体育委員会の意欲的な協力と支援によって大会を大いに盛り上げてくれた。

次年度に向けて、さらに家庭・地域と連携した体育大会を目指し、子どもたちの健やかな心と身体づくりのために応援をしていきたいと考えている。



【小学校最後の親子走・6年生】

(1) 保護者学級

総務委員会が中心となり、2月に保護者学級として、子育てに関する講演会を開催している。委員会では、子どもたちの学校・家庭生活の様子と保護者の意見をもとに、9月から講師の選定と講演内容について打ち合わせをしていく。

PTAとして、子どもたちの豊かな心と健やかな体を育ていくためには、学校・家庭・地域が一体とな



って見守り、支援していかなければならないと考えている。そのためには、保護者として、子どもとどのように向き合っていくことが大切なのか考えていく必要がある。

今回は、講師に“NPO法人子ども未来自立支援ネット”の理事長である乙坂晃寿（おとさかこうじゅ）先生をお招きした。「壊れいく地域・社会・家庭そして子どもたち」～10年後の子どもたちの笑顔のために～という演題で、子どもたちを取り巻く社会環境の現状から、子どもたちにとって大切なしつけや教育について1時間余り熱心に語っていただいた。

他の人・身のまわりの物に対して、思いやりのある心や感謝する心を子どもたちに培われるように、親として家庭として何をしていくべきなのかヒントを与えてくれる講演会となった。

「子は親の言うなりではなく、するなりに育つ」という言葉には、深い意味が込められている。子は親の鏡と言われるように、親が子どもの手本であり続けることが大切であり、自分自身を振り返る時間でもあった。

参加された保護者の方からは、「親の背中を見て子は育つと言いますが、多くの面で親の影響は大きいと改めて考えさせられました。目の前の子どもを見て、子どもと一緒に成長していきたいと思えます。子どもが大きくなった時、お母さんありがとうと素直に言ってくれる母親を目指したいですね。」という感想をいただいた。熱心に耳を傾け保護者として我が子との向き合い方を考えるよい機会となった。これからも、学校・家庭・地域と一緒に子育てをしていくという意識を高めていきたい。

4 その他の活動

(1) 夏休み奉仕活動（総務委員会）

多くの会員の方に集まっていただき、職員、子どもたちだけでは手の届かないグラウンドの草取り、校舎のクモの巣取り、側溝の泥あげ、ペンキ塗り（号令台、柵）などをお願いしている。



(2) 子ども安心ネットワーク事業（地域ボランティア・PTA会員全員）

子どもたちの登下校の時間帯には、保護者や地域のボランティアの人たちに信号機のない横断歩道などで見守りをお願いしている。併せて明るく元気なあいさつ運動の推進も行っている。また、不審者対策として4地区に分かれ、午後4時から6時頃までPTA会員が当番制で、巡回パトロールを年間行っている。

【地域の登校見守り】

(3) 危険箇所マップの作成（安全補導委員会）

子どもたちの登下校の安全安心を確保するために、安全補導委員会では、校区内の通学路や新しく整備された道路の確認を行い、危険箇所マップを作成した。毎年、改訂を行い家庭に配布している。



【25年度版危険箇所マップ】

(4) あさひっ子バザー（安全補導委員会、学級委員会）

安全補導委員会、学級委員会両委員会を中心となって、7月初旬より打ち合わせを行い、PTAの会員の方から使わない台所用品や児童の体操服、制服などを持ってきていただいた。10月に値札貼り・袋詰めなどの準備を行い、11月の学習発表会の日に合わせて販売を行った。隣接する朝日中学校のPTA会員の方からも商品の応援をお願いした。

5 成果と課題

各種のPTA活動を通して、家庭・地域・学校三者の連携が充実し、地域全体で子どもたちを見守り育てていく意識の高まりを感じることができた。PTA組織の地区代議員・補導員、学級委員の方

だけではなく、地域の人たちの積極的な協力により子どもたちの安心・安全が維持されていることも日々感じている。子どもたちが地域の人たちと交流する機会を持つことで、地域を愛し大切に思う心が育まれていることは間違いない。

これからの課題として、会員の方のPTA行事への参加率が高学年の保護者になると下がる傾向にあることである。参加しやすい期日や日程を学校側と協議しながら、保護者同士が集いお互いの連携を深める有効な場として、今以上の参加を呼びかけていきたい。

次に、会員、地域の方の意見や要望を十分に取り入れ、内容の改善を図りながら、参加者全員が地域を大切に思う心を育むことのできる活動を考えていきたい。これからも、PTAが地域の方と積極的な連携・協力を行い、子どもとともに成長したいと考えている。

【質疑応答と意見交換】 発表校 越前町立朝日小学校PTA

越前町立萩野小学校PTA 伊藤 氏

質問 講演会について、参加者からのニーズに応える工夫とありましたが、保護者からどのようにニーズを拾い上げるのか。またどのようなニーズがあるのか、今後の参考にお聞かせ願いたい。

回答 現在は、保護者の方からのニーズの掘り起こしは余りできていない。役員と会員の間にも少しでも交流や対話をする機会を設けていきたいと思っている。
または、アンケートといった形でのニーズの拾い出しを行うなど、開催する2月までにしっかりと会員の方に伝えられるようにしたいと考えている。

越前市武生第一中学校PTA 是広 氏

質問 二つ質問をお願いしたい。

一つめは、PTA活動を一生懸命されているPTA役員の方だったら、とても気になるPTA活動の参加率向上の件だが、何か工夫があったら具体的にお聞かせ願いたい。

二つめは、単に事業を実施するだけではなく、児童たちが、各地域の中で地域人として学校や家庭の中だけでなく、地域にも育てられているのだという自覚をもってもらえるようにするには、これからどのように展開していくべきか、理想像があれば教えていただきたい。

回答 PTA行事と授業参観や学習発表会などの学校行事の同日開催をするなどして、会員の方に参加を促している。また、保護者は、行事の終了後に児童と一緒に帰るなどの工夫をしている。しかし、このままでは弱いので参加率を上げていきたい。

二つめの質問について、自覚は、子どもたちがこれから成長していき大きくなってから振り返りで気付いてもらえればいいと思う。私たちは、地域の子どもを見守り、地域の宝として育てることがとても大切である。先日起こった登校中の児童へのカッターナイフでの切りつけ事件では、地域の方が守っていただいた。子どもと地域の人が声を掛け合ったり助け合ったりすることで、つながっていくと考えている。それが理想である。子どもが大人になって、地域の人たちとつながり、そして、また子を育てるといった連鎖が続いてほしいと思っている。

越前市北日野小学校PTA 笠原 氏

質問 母親委員会の役割や構成について教えていただきたい。

回答 昨年はバザーのお手伝い、体育大会での接待を行っていただいた。これから考えていきたいと思っている。

ひろげる連携活動

～ 地域の小学校・高校PTAとの連携活動の試み ～

越前町立朝日中学校PTA

はじめに

(1) 本校の概要

本校は、昭和22年に旧朝日町の町立朝日中学校と旧糸生村の村立糸生中学校として開校し、昭和56年に校名を朝日東中学校、朝日西中学校としました。平成の大合併で平成17年2月に越前町が誕生すると地区名を尊重して朝日中学校、糸生中学校と校名を元に戻しました。やがて両校の統合の話が具体化し、新しく用地を確保して平成21年春に新校舎を整え、両中学校が1つとなった朝日中学校として統合し現在にいたっています。



本校では、平成16年から丹生郡内唯一の高校である丹生高等学校と福井型中高一貫教育(朝日地域)研究を進めています。朝日中学校3年生で連携1クラスが編制され、基本的に簡便入試を経て丹生高校

の連携クラスとなっており、今春6期生を送り出しています。連携クラスをふくめて本校卒業生の5割ほどが地域の高校という性格の強い丹生高校に進学しています。

少子化の影響で生徒数は減少傾向にありますが、全校生徒294名(12学級)が「進取」「精思」「創造」の校訓のもと積極的な学習、部活動などに取り組んでいます。

(2) 地域の概要

本校は越前町の東端に位置し、田園と新興住宅地の中にあります。旧朝日町地区の唯一の中学校で、住民の期待・信頼は大なるものがあります。校下に糸生小学校、常磐小学校、朝日小学校があります。地域の産業としては窯業、漁業などがありますが、近隣の鯖江市、福井市などに勤務する住民が多く、ベッドタウン的性格が強い地域です。

1 PTAの概要

(1) PTAの組織

校下各地区からの保護者代表として実行委員会(企画部、福祉厚生部、文化教養部、保健体育部の4専門部会からなる)、補導委員会が活動し、各学級からの保護者代表として学級委員会・母親委員会が活動しています。

(2) 活動目的

- ①家庭、学校及び地域における生徒の健全な育成を図ります。
- ②家庭、学校及び地域の連携を深め、教育環境の整備を図ります。
- ③会員相互の研修を通して、教養を高めます。

(3) 各委員会の活動内容

①企画部：会長、副会長、庶務、会計からなり、全体の各種事業計画、予算を立案し、運営にあたります。会長、副会長はそれぞれ他の3専門部や補導委員会のメンバーを兼ねます。

②福祉厚生部：生徒の福祉厚生に関する事業、たとえば、資源回収や教育講演会を企画運営します。

③文化教養部：機関誌を発行して学校教育及び家庭教育への関心を高める事業をします。PTAだよりを年3回発行します。

④保健体育部：生徒の健康に関する事業、たとえば、マラソン大会(校内)や体育祭への準備、撤回の協力、健康・保健に関するアンケート調査実施を企画・運営します。

⑤補導委員会：実行委員会や校下の諸機関と連携して生徒の校外生活の健全な育成にあたります。たとえば、あさひまつりや夏季休業期間中の地区別校外補導や資源回収を行います。

⑥学級委員会・母親委員会：P T A主催の学年行事、たとえば学年懇談会で子育ての課題について教員を交えて話し合い、親子ふれあいメッセージなどの企画・運営のほかには学校祭のP T A企画の企画・運営にあたります。

2 毎年の活動の中から

(1) 資源回収による地域との協働

福祉厚生部や補導委員会のメンバーを中心に地域の住民や保護者、生徒、教員が一体となって活動し、地域とのつながりを肌で感じ、資源を大量に消費する現代生活、資源の有効利用等について見つめ直す機会になっています。P T A活動の資金源としても有益な活動です。

(2) 親子ふれあいメッセージ

学級委員・母親委員が呼びかけて、保護者が生徒に日頃の思いなどを手紙にしたため、クラス担任を経由して生徒に渡します。その手紙を読んで生徒が返事をしたため、クラス担任を経由して保護者に手渡す活動を行っています。普段手紙にお互いの気持ちを書いてやりとりすることは少ないためか、親子相互理解のよい機会になっています。



(3) 学校祭（文化祭）P T A企画

学級委員・母親委員が中心になって学校祭でフルーツポンチやホットケーキなどを作って軽食コーナーを設けました。生徒と保護者のふれあいになっていました。また、1学期の保護者会の日に保護者むけに給食の試食会を行って給食の栄養バランス、味付けの工夫、地産地消について理解を深める有意義な機会を設けています。

(4) 小学校区ごとの見まわり活動

本校校下の糸生小学校、常磐小学校、朝日小学校の各校区別に生徒の帰宅時間帯に合わせて保護者の皆さんが輪番で見まわり活動として自動車にステッカーを貼って各校区をパトロールする「子ども安心ネットワークパトロール活動」を小一時間程度行っています。常磐小学校区では全世帯に子どもの有無に係わらず輪番順が決められ、糸生小学校区・朝日小学校校区では本校生徒の保護者は週二日が割り当てられ、輪番でパトロールしています。

3 小学校との連携

(1) 朝日小学校で行われているP T A企画バザーに協力することを企画部で決め、全保護者に家庭で眠っている品物（特に子どもが小・中学校のころに使った制服、体操服、カッターシャツ、スポーツ用品）の提供をお願いし、学校で収集したものを昨年11月17日（土）に行われたバザーの「小中連携コーナー」に出品しました。制服、体操服は必需品なので洗い替え用に安価で入手できる形となるこのバザーは大変好評でした。初めての試みだったこともあってか出品数がそれほど多くありませんでしたが、何年かに一度の頻度で開催すると品数もそろってよいのではないかとの意見がありました。

4 高校との連携

丹生高等学校と福井型中高一貫教育を進めている活動の一環として、中学2年生が丹生高校を訪問したり、丹生高校生が中学校の進路学習のアドバイザーとして説明会に参加したりしている他、部活動の合同練習なども行っています。P T



Aでも連携した活動をしようということ、昨年初めて丹生高校PTAからの呼びかけに応じる形で以下のような活動が行われました。参加者は今後両校PTAの年中行事として定着していくよう努めていこうとの強い思いを持ちました。

(1) 交通安全啓発活動

「交通安全茶屋」と銘打ってドライバーに交通安全を呼びかける運動を丹生高校PTAと共同で行いました。本校PTA企画部の役員、園芸ボランティア部の生徒、顧問教員が参加しました。昨年7月15日(日)の8時30分から2時間、越前町役場前の駐車場で国道を通過するドライバーに生徒手作りの交通安全のチラシ、冷たい飲み物、ボールペン等を配布するとともに交通安全、交通事故の防止を呼びかけました。



両校生徒や両校PTA役員の交流の機会ともなり、また鯖江警察署や交通安全協会の方々との話もできて有意義な機会となりました。中学の部活動の大会日程と重なり、一部の生徒に参加を呼びかける形でしたが、今回は全校生徒に参加を呼びかけることにしました。

(2) 親子ボランティア活動を丹生高校PTAと共同で行いました。本校生徒会でも参加を呼びかけ、本校PTA会員や園芸ボランティア部などの生徒が参加しました。昨年10月28日(日)8時30分から1時間半、役場前駐車場やバス停、公園、神社、道の駅などの清掃活動、福祉施設の光道園のガラス拭きなどを行いました。地域に貢献するだけでなく、両校生徒や両校PTA役員の交流の機会ともなり、親子で参加した会員は親子共同作業によるふれあいのよい機会となりました。

5 他校PTAとの連携の上での課題

何を行うかによりますが、第一に日程調整の難しさがあります。特に中学校・高校では生徒の部活動公式大会、試験期間、学校行事などにより双方の日程の調整がつきにくい面があります。また、年に1、2度程度でお互いに無理なく少数でも行っていくことができる内容のものにすることが息の長い連携活動にする上で留意する点だと感じました。

【質疑応答と意見交換】 発表校 越前町立朝日中学校PTA

越前市南越中学校PTA 竹内 氏

質問 特に高校PTAとの連携に興味深く聞いた。中学校、高校のPTAはそれぞれ組織・目的・活動内容が違うと思うが、(連携は難しいと思うが)、約半数の生徒が丹生高校に進学するという事で連携がとりやすい環境にあるのかなと思う。保護者の中から高校と連携することへの疑問や不安、反対だとかなかったのか。目的や活動のすり合わせについて、具体的にどうしたのか、教えてほしい。



回答 県内でも珍しい福井型中高一貫連携教育を丹生高校と朝日中学校で行っているので、PTAでも小さな事からまずは始めてみよう、昨年初めて試みたが、反対などの意見は出ていない。逆に幅を広げた方がよかったかとか、日程を考えた方がよかったか、といった意見はあった。

質問 連携してよかった点、問題点について聞かせてほしい。

回答 PTA役員も喜んでくれたし、保護者の中で中高一貫の連携クラスに入れたいと思っている保護者の方は丹生高校のPTA活動を知ることになったし、高校保護者の方との意見交換もできた。

学校と家庭と地域の支え合いで、笑顔いっぱいのPTA活動

美浜町丹生小学校PTA

はじめに

(1) 地域と学校の概要

丹生小学校は、敦賀半島の西側先端に位置し、丹生湾を挟んで対岸に関西電力(株)美浜原子力発電所が立地し、海水浴シーズンには多くの観光客が訪れる水晶浜園地を有する風光明媚な農山漁村の丹生、竹波集落のほぼ中央に立地しています。

そして、平成25年度の児童は、丹生、竹波と敦賀市白木の3地区から登校しており、児童数は、複式学級である2年生1名3年生3名と、単式学級の4年生3名、そして複式学級の5年生1名6年生2名の3学級10名です。男子6名女子4名が在学する極めて小規模な学校ですが、子どもたちは、みんな明るく素直です。

(2) PTA組織の概要

丹生小学校PTA(丹生校PTA)は、会員数が8名で、全体会である総会のほかに次の組織で構成されています。

役員会…統括者である会長、補佐する副会長と顧問である3区の区長および校区選出の町議会議員からなる。

運営委員会…会長、副会長と母親委員(2名)と学校代表で構成し、事業の計画立案、遂行が任務となる。

会計監査委員会…顧問である3区の区長に委嘱し、会費と各地区からの補助金、その他の収入からなる会の経費の会計監査を行う。

本校では、平成15年度より校長、教頭とPTA役員および各区長、地区民生委員・児童委員と校区選出町議会議員ならびに中学校、保育園代表で組織する「丹生校を拓く懇談会」が設置されており、子どもたちが健やかでたくましく育つように、家庭・地域・学校が連携協力するための活動を行っています。

1 丹生校PTAの活動

(1) 親子ふれあい会

「親子ふれあい会」は、〇地域で親子がいっしょに一つのことに取り組み、触れ合い、楽しいひとときを過ごす〇PTA活動の活性化を図る〇子ども、親、教職員のコミュニケーションを図ることを目的に、平成15年度から毎年1回開催しているものです。

平成23年度は、体育館において親子ふれあい運動会を実施しました。普段では親子一緒に競技する機会はほとんどありませんが、難しい競技を笑顔いっぱい楽しみました。家とは違った親子のふれあい、絆が感じられました。



丹生小学校の児童数・PTA会員数

学年	学年児童数						合計	PTA会員数
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
丹生	0	1	2	3	0	2	8	6
竹波	0	0	0	0	1	0	1	1
白木	0	0	1	0	0	0	1	1
計	0	1	3	3	1	2	10	8



そして、昼食は恒例で好評のバーベキューを行いました。駐車場へのテントやバーベキューコンロの設置と食材の焼き役は、もちろんお父さん方で、手慣れた様子です。

運動した後に、みんなで食べるバーベキューは格別で、兄弟でなくても、よその子でも、大きい子が小さい子の面倒をみるなど、親子以外のふれあいも見受けられます。

平成24年度は、初めてバスを利用して校区外へ出かけました。滋賀県のウッディパル余呉です。当日はとても良い天気で、施設内のフィールドアスレチックで大人も子どももめいっぱい体を使って汗を流しました。みんなが遊んでいる姿は、うちの子もよその子もみんな同じ、みんな家族、まるで本当の親子、夫婦のようで、楽しい交流のひとつでした。

平成25年度もバスを使って校区外、滋賀県の高取山ふれあい公園へ出かけました。今回は趣向を変えて、親子で体験！陶芸教室です。



ろくろを利用せず

に、粘土の紐を作って輪積みし、指で伸ばして成型していく方法が基本ですが、粘土の塊を伸ばしたり千切ったりと自由に創作します。親子での共同制作のほが、お母さんが夢中になって、独り占め、なんてことが。楽しみにしていた完成品は、夏休みに送られてきました。

陶芸教室の後は、丹生校お決まりのバーベキューです。今年も天気に恵まれて、近江牛が最高で、予約したごはんが無くなって追加することになりました。



(2) P T A奉仕作業と広報誌発行

丹生校では、P T A会員による奉仕作業を年2回実施しています。年々減少するP T A会員、作業をするにも人手不足ですが、教職員のみなさんと子どもたちの協力で、必要なことをできるところから実施しています。

子どもたちの健全な学校生活は、まず環境から、と保護者は汗を流します。

次に紹介するのは、これも年2回発行しているP T A広報誌「丹生校P T Aかわら版」です。副会長が編集を担当し、前期に発行するものは、親子ふれあい会

の様子が中心で、後期発行のものは、体育祭の内容となるが多くなっています。どちらも採用する写真の選考には苦労しています。

このかわら版を発行することによって、活動の足跡を残すことができます。

(3) 連合体育祭

名前のお通り、学校だけでなく地域のみなさんと一緒に実施する体育大会です。平成24年度からそれまでの「体育大会」を「体育祭」に改めて、児童の紅白対抗も廃止し、子どもから大人まで地域が一体となった「まつり」とすることを目指して実施しています。児童のお父さん、お母さんだけではありません、地域のおじいちゃん、おばあちゃんや中学生、高校生、成人した卒業生までもが参加

して、3地区のみんなが児童10名の丹生小学校を盛り上げてくれます。

(4) 教育講演会と地域交流活動

丹生校PTAは、遊んでばかりいるのではありません。年に一度、講師をお招きして教育講演会を開催しています。子どもたちのために、身近なテーマを課題としての勉強会です。

平成24年度は、地区の診療所である丹生診療所の佐川祐子医師に「生活のリズム」について講演いただき、教員、保護者が一緒に子どもたちの早寝・早起き・朝ごはんについて、考える機会となりました。今年度は、上中のNPO法人「里豊夢(りほうむ)わかさ」の前田勉先生をお招きして、「寝る子は育つ～親子でグッスリ睡眠のススメ～」と題した講演を開催し、講演を傾聴したほか、事前に提出した子どもたちの1週間の生活リズムからアドバイスをいただくなど、意義ある研修をすることができました。



また、PTA活動ではありませんが、丹生校では地域とのつながりを大切にするために、地域のおじいちゃん、おばあちゃんが集まって交流する「ふれあいサロン」に参加して、高齢者の方とふれあう活動を行っています。平成25年度の1回目の交流では、折り紙を使っての創作活動を行い、夢中になりすぎたため、子どもたちの発表ができなくなったくらいです。



(5) 保護者参加型授業参観

授業参観というと、普通は子どもたちの授業を見るだけですが、丹生校では保護者も一緒に活動することが多いです。

平成24年度のふれあい運動会では、各学級の子どもたちが考えたゲームに親、子ども、職員が参加します。最初に子どもたちから、そのゲームのルール等の説明があり、練習の後、本番です。手つなぎ鬼ごっこでは息を切らして走る親が何人もいました。少し変わったドッチボールでは、親も必死でボールから逃げ回ったり、子ども相手にむきになってボールを投げたりと、とても楽しい時間を過ごしました。

毎年実施しているなわとび大会に平成24年度は保護者も参加しました。「みんなでジャンプ」と「大縄の8の字跳び」では、親子対決を行いました。保護者と教員チームVS児童チーム、子どもたちに負けてなるものかと頑張ってジャンプするも、気持ちに体がついていかず、毎日体を動かしている子どもたちには、とても敵いません。久しぶりになわとびを跳んでみて、子どもたちの運動能力のすごさに気づかされます。「こんなはずじゃなかったのに…」倒れこむ大人たち、自身の衰えに改めて気づかされました。

そして、年度末の3月には卒業を控えた6年生を送る会を実施します。在校生はもとより教職員、保護者がそれぞれで考案した出し物で、卒業生の門出をお祝いするのです。おじいちゃん、おばあちゃんや近所の人たちも集まって、地区の子どもたちの巣立ちを喜びます。

平成24年度は土曜日に開催したことで、お父さんたちも参加いただきました。お母さんたちは合



唱を披露し、歌唱力に自信のあるお父さんと先生はデュエットで熱唱、そして、お父さんたちは、硬くなって動かない体に鞭打って「女々しくて」のダンスを披露しました。子どもたちには喜んでもらったのではないかと、自己満足しています。

おわりに

はじめにご説明したとおり、丹生校の現在の児童数は10名です。10名という児童数では、本来の学校生活、団体生活を送ることは困難であると思います。しかし、子どもたちがより良い学校生活を送ることができるよう教職員の皆様にはご尽力いただいております、その努力に対して、とても感謝をしているところです。

そして、本校PTAの活動をご説明させていただいたとおり、丹生校では今後も、学校と家庭、そして地域全体での支え合いによって、小さい学校の子どもたちを明るく、笑顔いっぱいにしていくことができるよう、よりよいPTA活動を追求しながら、「丹生校PTAならではの」活動を、知恵を出し合い、力を合わせて取り組んでいきます。



【質疑応答と意見交換】 発表校 美浜町立丹生小学校PTA

敦賀市立敦賀北小学校PTA 桃井 氏

意見 発表内容については、地域一体となって児童たちと接していて素晴らしいと感じた。地域、PTA、校風といった学校を取り巻く環境が、人を育てていくのだと実感できた。学校任せになってしまうことが多いが、やはり学校を取り巻く全体が一緒になって子どもたちを育てていくことが大切だと感じた。

美浜町菅浜小学校PTA 吉本 氏

意見 菅浜小学校では田んぼで稲作をすることで、自然と向き合った教育を実施しており、収穫したお米は地域全戸に配布している。運動会も地域をあげて実施しており、地域と一体となった活動を行っている。菅浜小学校も児童数が少なく、PTA活動も人数を確保するために、土日に実施するなどの工夫をしている。

地域で子どもを育てる環境づくり

～あたたかな まなざしを感じて～

おおい町立名田庄中学校 P T A

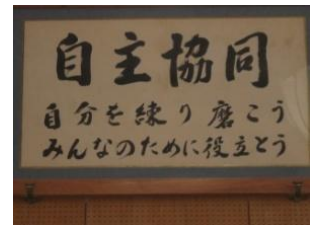
はじめに

名田庄中学校は、福井県の最も南にあたる、おおい町名田庄地域にあります。平仮名のおおい町は平成18年に旧大飯町と旧名田庄村が合併して生まれました。町の人口は8,736人で、そのうち名田庄地域には2,548人が暮らしています。面積の97%が山林であり、嶺南地域の中でも「田舎」と呼ばれるところです。豊かな自然とサルやシカなどの野生動物に囲まれた生活を送っています。

名田庄中学校は、昭和36年に創立され、今年で52年目を迎えています。

現在の生徒数は80名。P T A会員数は、保護者が67名、教職員が14名です。部活動は、男子が、野球部と卓球部、女子は、ソフトテニス部と卓球部に分かれており、全生徒がいずれかの部活動に参加しています。小さい学校ながらも活動は活発で、団体や個人で県大会へ出場を果たしています。

「自主協同」を校訓とし、あいさつ、身だしなみ、そうじといった「凡事」を「徹底」することを生活指標として掲げています。学校では、「知」「徳」「体」の3つの側面から、自ら学び共に高め合う生徒、互いに認め合い・励まし合える生徒、心身ともに健やかでたくましい生徒、という「自主協同の精神を基盤とした生徒」を育てることを目標にしています。



1 活動内容決定にあたって

(1) 中学生を取り巻く環境

自然に囲まれた田舎ではありますが、中学生を取り巻く環境は時代の流れとともに大きく変化しています。例えば、以前に比べると、近所づきあいが希薄になってきているのは間違いないところですし、地域行事への協力者が年々少なくなってきているという声をよく耳にします。

このような環境の移り変わりの中で、今の中学生には、規範意識の低下や、他人への配慮に欠ける言動が目につくようになったような気がします。また、対人関係をうまく築けない生徒が増えていのではないかという心配もあります。インターネットやスマートフォンなどの急速な普及がその一因であるとはよく言われるところですが、ネットを通して手に入る世界中の情報に価値が置かれるようになり、ネットにのらない身近な現実が軽んじられている傾向が感じられます。遠くのことはよく知っているけれども、近くのことにはかえって知らないし、関心も薄いという状況があるように思われます。このままでは何か良くないのではないか。私たちの活動は、その不安感がスタート地点になっていると言えます。

(2) 取り組みの背景

そこで、私たち名田庄中学校 P T A では、まずは地域の人たちに中学生のことをもっと知ってもらうことから始めてみようと考えました。今の中学生はどんな活動をしているのか、何に関心を持っているのか、今の中学校にはどんな子どもがいるのか、部活動の成績はどのようなのかなど、地域の人たちに中学生の活動に関心を持ってもらい、行動に目配りをしていただくことで、地域で子どもを育てる環境を作り出していきたいと考えました。

2 活動内容

このような考えのもと、次のような活動に取り組みました。

(1) P T A 広報紙を名田庄地域の全家庭に配布

P T A 広報紙「息吹」は各学期に1回発行しています。この広報紙を全戸配布し、地域の皆さんに広く中学生の活動を知っていただくことを考



えました。

各号それぞれに特集を組み、1学期は新しく仲間入りした1年生の今の気持ち、2学期は2年生の職場体験報告、3学期は卒業を迎える3年生に将来の夢を語ってもらうなど、変化のある紙面づくりをめざしました。子どものいないご家庭においても、中学校のことが話題になるといいという広報委員の思いが伝わったのではないかと考えています。

(2) 地区別懇談会を小学校と合同で開催

地域で子どもを育てるという観点から、小学校と中学校のPTAが合同で地区別懇談会を開催しました。

昨年度は、7つの会場で実施しました。小中学校の先生、保護者だけでなく、各地区の区長さんや民生児童委員さん、老人会や婦人会の役員さんにもお声掛けをし、いろいろな立場から意見交換をしていただく機会となりました。

この合同地区別懇談会は、平成22年度から3年間にわたって開催し、各種団体からのご参加をいただくことで、地域で子どもを見守る体制作りに役立ったと考えています。小学生の保護者は、中学生の現状を理解することにより、今後の子育てに活かすことができますし、中学生の保護者から小学生の保護者への有意義な助言が聞かれることも多くありました。自分の子どもだけでなく、他の子どもへ目を向けるきっかけづくりとなりました。

もともと、問題点がないわけでもなく、小学校と中学校では保護者が抱えている問題が違うために、話がかみ合わない場面が見受けられることもありました。しかしながら、地域の方々に広く参加していただき、現状を知っていただくことで、生徒の行動に目配りをしていただく方を増やすことができたのは大きな成果でした。

こうした3年間の実績を踏まえ、「広がり」と共に「深まり」も必要であろうという考えから、今年度は、小学校と中学校が個別に地区別懇談会を開催し、それぞれの課題について、ポイントを絞り込んだ話し合いをしてみようということになりました。これからも、一つの形にとらわれることなく、意義のある懇談会となるように、柔軟な取り組みをしていきたいと考えています。

(3) 学級PTA活動などで、地域の色々な方々と触れあう機会の設定

これは、学級PTA活動や親子奉仕活動、登校見守り活動などを通して、地域の人たちとの係わりをもっと深めようというものです。本校では、学級PTA活動として、各学級ごとに、生徒と保護者が一緒に体験活動をするなどの行事を設けています。竹細工をされている方を講師としてお招きして、親子一緒に竹とんぼを作り、保護者も童心に返って竹とんぼ飛ばしに熱中しました。受験を控えた3年生と保護者は、うるしだるまの製作に挑戦しました。みんなそれぞれの思いがこもったユニークな合格だるまができました。また、マスクで顔が隠れているのが残念ですが、イケメン調理人を講師として、魚さばき体験も実施しました。親子で魚と格闘したあと、みんなでおいしくいただきました。



親子奉仕活動では、庭木の剪定やペンキ塗り、清掃活動など、保護者が仕事や特技を十分に活かしながら、生徒たちと一緒に学校環境整備に汗を流しました。普段は話をする機会もないよその子ども、よそのおじさん・おばさんがおしゃべりしながら身体を動かすというのはなかなか良いものです。



毎月の登校見守り活動では、通学路に保護者が立ち、声掛けや交通安全指導をしています。車を運転しているときには味わえない、子どもたちとの生のふれあいがあります。

このように、子どもたちと家族以外の地域の大人たちとのふれあいの場を演出することにより、「〇〇くんのお父さん、めっちゃめっちゃ手先器用やなあ〜」とか、「〇〇ちゃんのお母さん、こんなすごい一面があるんや〜」などという発見があったのではないかと考えています。地域の人たちに目を向けることで、自分も地域の様々な人たちの中で暮らしていることを実感してもらいたいと願っています。

(4) 学校祭を町民ホールで開催し、地域に公開

最後の取り組みは、学校祭の公開です。校内で実施していた学校祭を、町民ホールで開催していただくように学校にお願いをしました。名田庄地区に新しくできた、里山文化交流センター「ぶらっと」を利用して、より多くの方々に中学生の活動の様子を見ていただきたいと考えたからです。

絵画や書道などの作品展示や大ホールでの舞台発表など、全ての企画を公開していただきました。また、各学年の合唱や有志企画のパフォーマンスやピアノの弾き語りで尾崎豊を熱唱する姿も見られました。向井理と千葉雄大は、どちらがカッコイイかという発表も盛り上がりを見せました。



こうして町民ホールで学校祭を公開していただいたことにより、保護者からは、従来より行きやすくなったという声が聞かれ、地域にお住いの子どもがいないご家庭の方々の参観も増えました。生徒たちは地域住民の方に見られるので、緊張もしていましたが、そのぶん張り切ってもいたようです。みなさんに中学生の活動の様子を広く知っていただくよい機会になりました。

おわりに

私たちは、「PTAの担う役割は何だろうか?」という大きな課題を前にして、なんとか地域と学校を結び付けるきっかけづくりができないだろうかと考えてきました。

今回ご紹介したような取り組みを通して、地域住民の方々には、中学生を多角的に見守り、理解していただきたいと考えていますし、中学生には、地域の方々の視線を意識することで、自分の言動に責任を持つようになってもらいたいと期待しています。

思春期で、大人の干渉を拒みがちな中学生ですが、地域の人たちの視線を、自分たちへのあたたかな「まなざし」と感じるようになることで、地域の人たちと共に育ってほしいと願っています。そして、将来は、名田庄に限らず地域を支える人材となり、次の世代の子どもたちを見守り育てる役割を担ってもらいたいと考えています。

私たちPTA活動はまだまだ未熟で十分な成果を上げているとはいえません。地域と学校を結びつけるために、PTAとして何ができるか、何をしなければならないかを考え、今後も活動を続けていきたいと思っています。

【質疑応答と意見交換】 発表校 おおい町立名田庄中学校PTA

小浜市立中名田小学校PTA 内方 氏

質問 中学校になって子どもはどのように変わったか。

回答 インターネット、ipod touchなどの普及で、ネット利用の時間が長いのが問題である。保育園から12年間同じメンバーであり、子どもの位置関係が固定化してしまっている。中学生は保護者からの意見は聞かないので、他人からの意見が効果を持って欲しいと考えている。名田庄という狭い空間で子どもが育っているので、いろんな価値観の人と接することで育って欲しい。

質問 小浜第二中学校は8地区から児童が集まってくる。それぞれの価値観がある。地域と結びつくことは非常に難しいと思う。

回答 広報紙を全戸配布することで、中学生の様子がよくわかる。たいへんよい取り組みだと思う。

小浜市立内外海小学校PTA 田橋 氏

質問 紹介にあった魚さばきなど同じような取り組みをしている。

小さいところは地域としてのまとまりはよいが、中学生になり他の学校の子と一緒にになると萎縮するところがある。心の丈夫な子を育てるにはどうしたらよいか。

回答 名田庄地域の人々が温かいので、克己心や独立心が十分育たないところがある。高校に行ってからカルチャーショックがある。

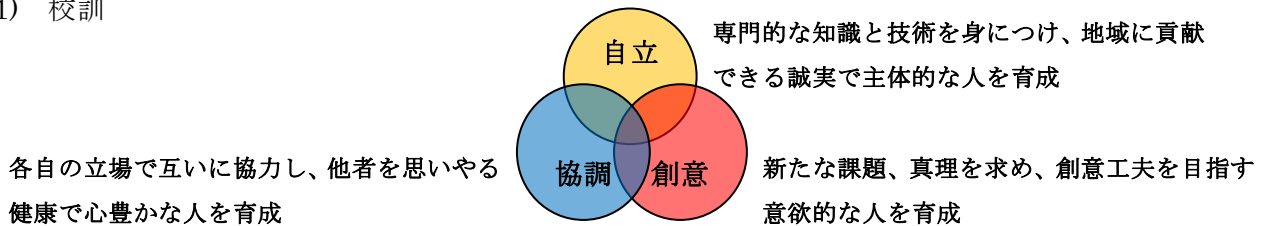
平成25年度 福井県高等学校PTA指導者研修会 実施状況一覧

《 地区別研修会 》

地区・期日・会場	講演内容・講師	発表校
<p>【 嶺北地区 】 9月14日(土) 福井県生活学習館</p>	<p>基調講演 『思春期の子を持つ親の役割 ～高校生が保護者が子どものために すること、しないこと～』 講 師 福井心のクリニック 臨床心理士 齊藤 荘二 氏</p>	<p>福井県立奥越明成高等学校PTA 福井県立福井農林高等学校PTA</p>
<p>【 嶺南地区 】 9月7日(土) 県立三方青年の家</p>	<p>基調講演 『子どもたちをとりまく インターネット環境と ネット関連犯罪』 講 師 福井県警察本部 生活安全部 生活環境課 サイバー犯罪対策 室 係長 山田 尉貴 氏</p>	<p>福井県立若狭高等学校PTA</p>

1 本校の概要と特色

(1) 校訓



勝山南高校の校訓「友愛・自立」から「自立」を、大野東高校の校訓「誠実・協調・創意」から「協調・創意」をとりました。

「自立」は職業系専門教育をとおして、技と心を鍛え、自立した社会人を目指し、自分の仕事を自分の力で責任を持って誠実に成し遂げる力を育成する。「協調」は工業、商業、家庭、福祉と特徴の違う学科が一つの学校で学ぶことにより、お互いに友愛の心を持って協力し、一つのことを成し遂げる力を育成する。「創意」は新しいアイデアを生かしたものづくり、ビジネス社会の新たな考え方、食材を生かした調理、新たな感覚のデザイン、創造性豊かな生活環境・福祉環境など、すべての専門教育において独創的な考えを生む力を育成するという意味です。

(2) 教育目標

- 専門的な知識と技術を身につけ、地域の発展に寄与する態度を育成する。
- 各自の役割を理解し、互いに協力し活力に満ちた心豊かな人間性を育成する。
- 新たな課題に進んで取り組み、アイデアを生かす創造性を育成する。

(3) 沿革と特色

本校は地元産業界の中堅技術者養成を目的とした機械科、電気科、土木科の3学科からなる大野工業高校として昭和40年に創立し、以来、地域社会に貢献できる人材を数多く輩出してきました。

平成3年には大野東高校と改名し、情報科・福祉教養科を新設し、地域・時代のニーズに応えた学科再編を行いました。平成23年に大野東高校と勝山南高校が統合し、県内初の総合産業高校として奥越明成高校が開校しました。大野東高校の工業科、情報科学・建設科、福祉教養科と勝山南高校の情報科、経営実務科、生活経営科が統合され4つの専門学科からなる総合産業高校です。

本校を特色づけるものとして、大きく3点を上げることができます。

第1は総合選択制です。各科が連携し他学科の専門科目を取り入れ、幅広く奥行きのある専門知識を習得することを目指しています。第2に、即戦力として地域社会で活躍できるよう、各科・コースの特徴に応じて多くの資格取得に努めていることです。第3は「学校プロジェクト」として、各科・コースの研究部が中心になり、地元商店街のイベントへの参加や施設訪問等、地域の活動に積極的に参加していることです。高校時代に地域の様々な活動に参加することは、郷土愛や自己有用感を育てることはもちろんですが、保護者だけでなく地域からも期待と信頼を得るという意味で大変重要なことです。

2 総合選択制

科目	科	機械科	電気科	ビジネス 情報科	生活福祉科	
					生活コース	福祉コース
自学科の科目		機械工作	電子技術	簿記	生活教養	コミュニケーション技術
他学科の科目	建設	測量				
	機械	製図				
	電気	電気基礎	電気基礎			
	商業	簿記		簿記		
	家庭	フードデザイン			フードデザイン	
	福祉	社会福祉総合				
普通科の科目	国語総合					
	英語会話					
	数学B					

総合選択制は2年次に2時間、3年次に4時間実施しています。

ここでは、生徒一人ひとりの興味・関心や進路に応じて、自分の所属する学科以外の科目や大学進学に対応した教科等も学習することができるなど、学科の枠を越えた選択科目を導入しています。

例えば、製造業への就職を希望する機械科の生徒が、商業の「文書デザイン」を履修することによって、パソコン活用の業務も可能になる。商業科の生徒が、工業科の「機械工作」や家庭科の「フードデザイン」といったものづくりに関する科目を学ぶことで、商品開発に対するアイデアが広がる。また、さらに専門性を伸ばしたい生徒の大学進学に対応するなど、自学科以外のことも学習することによって、幅広い知識や技能を身につけ、人間の幅を広げることを目的としています。

3 資格取得

各科に応じて、多くの資格取得に努めています。生徒は始業前の朝課外や長期休業中の課外授業に参加し、資格取得を目指し頑張っています。

4 学校プロジェクト

工業科、商業科、家庭科、福祉科が、連携・協調し、それぞれの技術や知識を活かし、地域と連携しながら、商店街活性化や地域の様々なプロジェクト、イベント等に協力・参加しています。地域に根ざし、地域と共に発展する学校を目指している本校にとっては、重要な取り組みの一つであります。生徒が実社会と接することによって、自主性、責任感の向上と礼儀やマナー、コミュニケーション能力の習得を目的にしたプロジェクトです。

【例】

地元商店街へのイベント参加

右の写真は大野市七間通りに設置された機械研究部が、商店街活性化の企画の一つとして制作した「からくり人形」です。



越前おおの産業と食彩フェアの参加

このフェアは大野商工会議所が、地元の産業活性化と地元の多様な産業と豊かな食材のアピールのために毎年開催しています。本校も、開校1年目から商工会議所と連携し、全学科がブースを並べ、各学科がそれぞれの技術や知識を活かした作品展示や体験学習などを発表しています。



5 PTA 活動について

本校PTAの組織は、会長1名・副会長4名(校長含)から成るPTA役員と各学年から選出された常任委員(教頭含)で役員会を構成し、また各学級から2名ずつの評議員を選出し、監査委員・役員と合わせてPTA評議員会を構成しています。1年間の主なPTA活動は以下のとおりです。

4月 入学式、PTA入会式

第1回役員会

第1回常任委員会

懇親会

春の交通安全指導：市内3カ所で朝の登校指導を行う。

5月 PTA総会、授業参観

毎年第2日曜日の午後に開催：午前中は授業参観を行っている。特に1年の授業は専門科目(主に実習)を行い、保護者に専門科目の理解を深めていただく。

体育祭での模擬店の様子

7月 PTA会報誌発行

9月 秋の交通安全指導：市内3カ所で朝の登校指導を行う。

第2回常任委員会

体育祭：模擬店出店(焼き鳥、ジュース販売)

12月 PTA会報誌発行

2月 第2回役員会

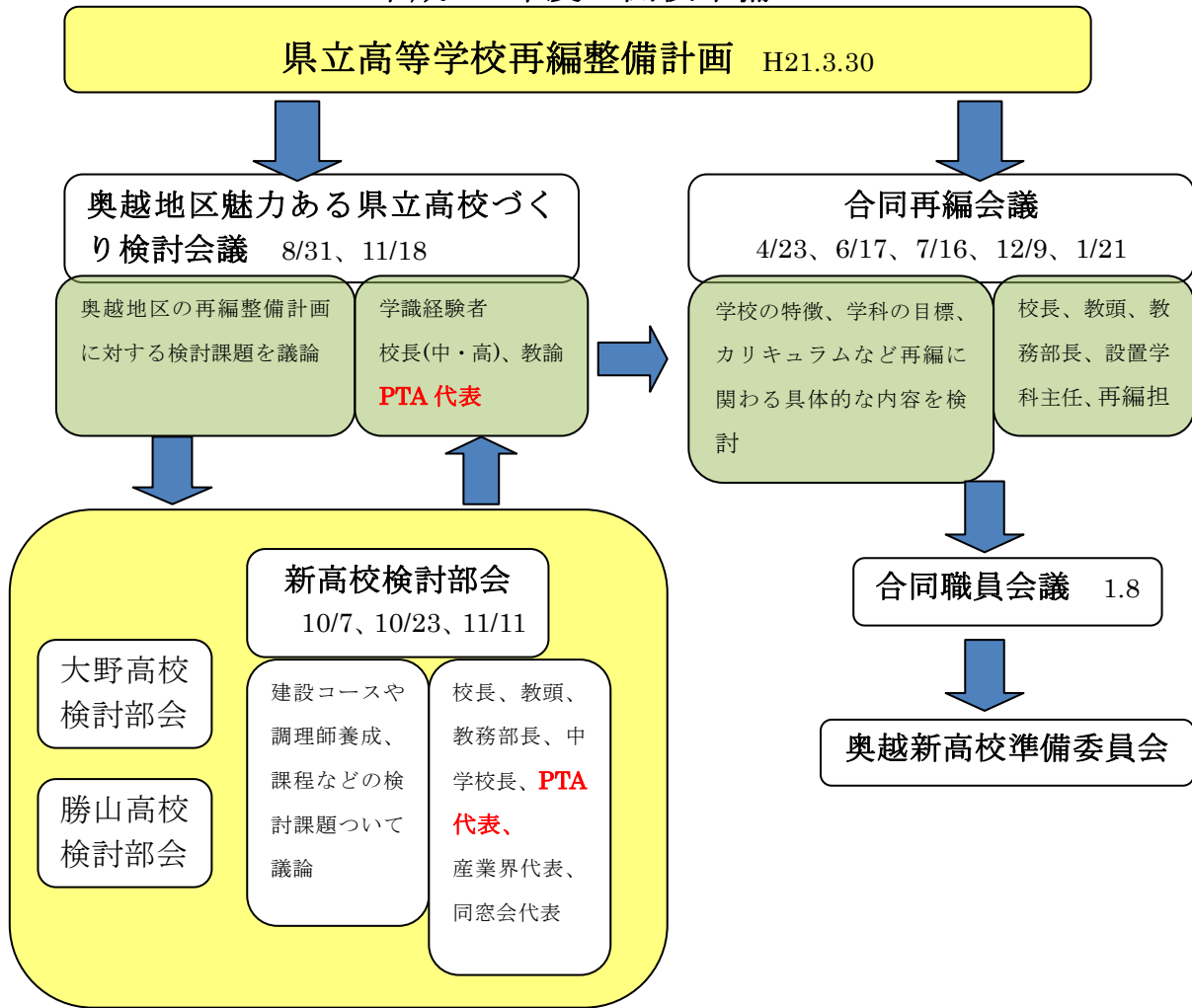
1年進路講演会

2年進路講演会

3月 第3回役員会



平成 21 年度 開校準備



PTAとして再編計画に関する保護者アンケートを実施しました。このアンケート結果や検討部会で議論された内容をもとに県への要望書を提出しています。アンケートの主な結果は次のようなものでした。

- ①総合産業高校としての位置づけ
 - ・進学も含めた柔軟な位置づけ 35%
- ②校名が変わることについて
 - ・現校名を残すべき 36%
- ③校歌が変わることについて
 - ・やむを得ない 35%
 - ・現校歌を残すべき 26%
 - ・校歌が変わってもよい 42%
- ④情報
 - ・校名が変わってもよい 35%
 - ・建設科が廃止されることについて
 - ・残すべき 61%
 - ・仕方がない 10%
- ⑤高校設置スケジュールについて
 - ・生徒・保護者・学校関係者の意見を聞いて進めるべき 52%
 - ・再編整備計画のスケジュールでよい 22%
- ⑥学科について
 - ・再編整備計画の学科でよい 24%
 - ・大野東高校の学科でよい 23%
 - ・学科をもっと充実すべき 21%
- ⑦PTAや同窓会に対して
 - ・再編計画に対して、もっと同窓会やPTA保護者の意見が反映されるべき 21%
 - ・今後、PTA・同窓会関係者の意見を聞き、十分調整を図りながら進めるべき 41%

そして、このアンケートや新高校検討部会での検討内容を踏まえて、以下のような内容の要望

書を PTA、同窓会、地元産業界、区長連合会等の連名で県に提出しています。

- ①建設科を残すこと。
 - ②PTA や同窓会への十分な説明と同意を得ながら進めること。
 - ③10年後を見据えた魅力ある学校づくりを目指すこと。
 - ④カリキュラムの充実を図り、進学希望者にも対応できるようにすること。
 - ⑤施設面で余裕があるなら、学級数や定員を増やすこと。
 - ⑥将来の社会・経済を見据えた希望の持てる学科を新設すること。
 - ⑦遠距離通学生徒のためのスクールバスを導入すること。
 - ⑧校名が変わることで、制服・体操服・クラブのユニホーム等、相当の保護者負担が予想されるため、負担軽減に配慮すること。
- などです。

さらに、統合にあたっては、「県は市・町の意見は尊重していく」との発言どおり本校 PTA・同窓会などに、時宜を逸することなく方針等を十分説明するとともに、具体的なスケジュール案や教育委員会が検討している「奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議」の組織や進め方についても、同様に事前説明を行い、協議しながら進めることなどを要望しました。



新高校準備委員会の中には、開校に向けたいろいろな委員会、例えば制服検討委員会や校章選定委員会などが設置され、開校に向けた具体的な準備が進められました。これらの委員会のほとんどに PTA 会長、あるいは PTA 役員が委員として加わり検討を進めました。

平成 24 年度に校歌制定委員会が設置され、平成 25 年度に入り、ようやく校歌が出来上がりました。作詞にあたっては、歌詞に入れたいキーワードを生徒や教職員から募集し、生徒有志と教員代表が原案を作成した手作りのものとなっています。そして、この 7 月 9 日に大野市文化会館で、作曲していただいた先生、PTA 会長、同窓会会長、地元中学校長に御出席いただき校歌発表会を盛大に行うことができました。生徒達は「やっと自分たちの校歌ができた」という喜びの気持ちを込めて、大きな声で歌っていたのが印象的です。

7 本校 PTA の課題

保護者の目から見れば、友達と仲良く過ごせているのだろうか、勉強は大丈夫なのだろうか、部活動はどうだろうか、といった日々の学校での活動、あるいは卒業後の進路にやはり関心があります。4 月の入学式後の P T A 入会式に冊子「共に築こう」を新入生の保護者全員に配布し、家庭と学校さらに地域の繋がりを啓発しています。特に、家族で築く子どもの未来の章では「家族のつながり」の項目で

- ・家族がなんでも話し合える温かい家庭を作りましょう。
- ・子どもの言い分をよく聞いてやりましょう。
- ・保護者は自分の生い立ちや仕事の厳しさを子どもに話しましょう。

と努力目標が書かれています。

家族のつながりを大切にし、家庭と学校が共に良い信頼関係、協力関係を築いていくために、私たちは身近にできる些細なことから始めて、子どもたちの成長・発展を願い、一人の悩み解決で終わることなく、みんなで P T A という組織を利用して、時には P T A に支えられながら考え解決していくことが大切だと思います。そのような場を提供していくことが P T A の活動だと思いますが、果たして現状はまだまだだと思います。保護者の過大な負担になることなく、研修や活動の場に参加したい・関心があると思っただけのものを提供できるかが本校 P T A の課題だと考えます。

【質疑応答と意見交換】 発表校 福井県立奥越明成高等学校 P T A

福井県立丸岡高等学校 P T A 林田 氏

質問 生徒数やクラス数について教えてください。

回答 1 学年 5 クラス、1 クラス 3 0 人なので 1 学年 1 5 0 名、全校での生徒数は約 4 5 0 名です。大野東高校時代は 1 学年 4 クラス、勝山南高校は 1 学年 3 クラスだったので、総合的に見ると少し減っているかもしれません。

質問 再編に関して県へ出した要望は取り入れてもらえましたか。

回答 当時の P T A 会員にアンケート調査を行い、地域住民、保護者、同窓会、地元産業界等の要望も取り入れ、まとめたものを県教委に提出していますので、その要望を組み入れて頂いた結果が現在の姿だと思います。

質問 P T A 活動の一つとして、体育祭で焼き鳥の販売をされているということですが、焼き鳥は自分たちで焼いているのですか。

回答 衛生上、火を通したものを購入し、炭火で焼いて温め直して販売しています。

質問 その収入はどのように使っていますか。丸岡高校の場合は、文化祭で牛丼とカレーを販売し、その収益で卒業式に花をあげています。

回答 本校は仕入れ値で販売していますので、収益はありません。

「心豊かに育て」

～親の関わりで子供を応援～

福井県立福井農林高等学校 P T A

はじめに

本校は今年創立120年周年を迎える農業教育単独校である。北部・西部に穀倉地帯を構える福井平野の東部に位置している農業高校であるが、農家の生徒はわずかである。生徒数は、1学年（男71，女72）2学年（男59，女76）3学年（男63，女69）合計410名で学級数は12である。学科は、生物生産科、環境工学科、生活科学科、生産流通科の4学科からなり、1学年各学科1クラスである。クラス替えはなく3年間同じであるが、その分クラスの絆は強くなる。

本校の進路状況は、平成24年度で進学35%、就職が61%であった。進学先の内訳は、国公立大学7%、私立大学18%、短期大学11%、専門学校62%であった。就職先の内訳は、公務員2.6%、建設7.7%、製造40.9%、卸・飲食・小売9%、サービス37.2%であった。

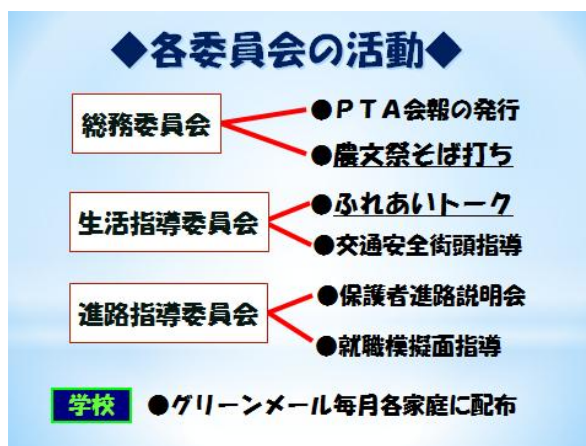
部活動は全員加入としており、現在、文化部10、運動部10、農業部7の部活動があり、日々熱心に活動を行っている。特にレスリング部、相撲部などは毎年インターハイに出場しており、郷土芸能部は県内外はもとより海外でも演奏活動を行っている。

校訓「^{たいち}大地に生きる」のもと、「自然に親しみ、大地を踏みしめ、誠実に生きる」という目標に日々取り組んでいる。特徴的な学校行事は、開校記念強歩大会、ふれあいマート、田植祭、農業鑑定競技、演習林宿泊体験実習、インドネシア国際交流、ファームステイ（北海道修学旅行）などを行っている。また、商品開発にも力を入れており、野菜のふりかけ「ベジかけ」や梅干しとらっきょうが入った「うららのドレッシング」が商品化されている。



1 主なPTA活動

本校のPTAの組織は、役員会、学級評議員会があり、評議員は総務委員会、生活指導委員会、進路指導委員会の3つの委員会に所属している。各委員会の活動内容は、下記の通りである。このうち、主な内容を紹介する。



(1) ふれあいトーク

生活指導委員会を中心とした活動で、毎年6月に開催。保護者に来校してもらい、親と親、親と先生が語り合う場として取り組んでいる。保護者に学校に来てもらうのが最初の目標である。しかし、懇談だけでは参加者が少ないので、まず「福農ならではの講座」を開催し、子供が普段どんな活



動をしているかを知ってもらうようにした。参加の呼びかけを総会で行い、さらに3年前からは案内文を自宅に郵送することにした。平成23年度34名、24年度33名、本年度は27名が参加。福農ならではの講座を設けて工夫はしているが、それでも年々参加者が減少している。何か対策が必要かと思われる。

懇談会での内容は、アルバイト、お金の使い方、携帯電話の使い方、有料サイト、ライン、就職・進学についてなど様々な内容であった。今年度は小グループでの懇談にしたので、話も盛り上がった。最後に保護者の質問に対して学校側から回答があり、不安などを解消してもらっている。



(2) 農文祭そば打ち

毎年11月開催の農業文化祭（農文祭）にPTA中心の「手打ちそば」を振る舞っている。事前に練習会を開き、全てPTAで行う。練習会では、そば打ち名人を招き、一から教えていただいている。初めての人でも当日そばが打てるように指導を受けるのである。

農文祭当日のお手伝いにはたくさんの方に協力頂いている。早朝よりネギ切りや、大根おろし、そば打ちなど決められた役割にしたがい、和気あいあいと準備をしていく。本校のそばつゆは、先輩のPTAより受け継いだ方法で、水を使わず大根おろしとその絞り汁、醤油のみで作っている。

昨年度の協力者は58名。手伝いの合間をみて農文祭の見学にも行く。子供の様子を見る絶好の機会である。



(3) 進路指導委員会

進路指導委員会の活動は、主に就職する生徒に対する面接指導と、1、2年生対象の保護者進路説明会の開催である。いずれも、学校側の進路指導部を中心とした活動で、PTAがお手伝いする形である。面接指導は、就職試験を目前にした9月上旬に、本番さながらの練習を行っている。2年前から東ローターリ・クラブの方々と一緒に面接を行っている。生徒も緊張しているだろうが、面接する保護者の方も緊張しながら面接を行っている。1、2年生対象の保護者進路説明会は、土曜日の午後に行われるということもあり、多くの保護者の参加がある。この保護者進路説明会終了後に、そば打ち練習会を行うことにして、なるべく多くの方に参加しやすいよう日程を組んでいる。

2 まとめ

この他、委員会の活動ではないが強歩大会にも給茶の手伝いや誘導員として参加している。学校行事に参加することが、保護者同士や先生との関わり、PTAのOBとの連携へとつながっていく。このことが学校や子供に関心を持ち、共通の話題が増え、最終的には子供とより深く関わることにつながっていく。

福井農林高等学校のPTAでは、親は学校をバックアップするものと考えている。それは親と学校でなく、親と子の会話からだと考える。でもなかなか共通の話題がない。まずは学校に行って普段の子供達の体験を親も体験する。ほとんどの場合、親の方が下手である。しかし、親のありのままの姿をみせる。「おまえ、学校で難しいことやってるんやな」から始まる会話を大切にしている。ともに学びともに育つ気持ち、これが子供の夢を応援することのきっかけになると考えている。福農でしか学べない大切なことから、子どもたちが心豊かに育ってほしいと願っている。



【質疑応答と意見交換】 発表校 福井県立福井農林高等学校PTA

福井県立科学技術高等学校PTA 川崎 氏

同じ職業系の高校として、興味深く聴かせていただいた。私は、住まいの方が農林高校に近くて、農林高校の子供達の姿をよく見かける。子供達が、ふれあいマートなどで地域の方と密着している様子、修学旅行での現地の方とのふれあいを主にしたファームステイ、人とのふれあいをしっかりしているととても素晴らしい学校だと感じた。

また、PTAが、その子供達をしっかりサポートされていてとても参考になった。

PTA活動は、面白い！ 楽しい！ そして 感動があります

福井県立若狭高等学校PTA

1 本年度の本校の概要と特色

(1) 教育目標

「異質のものに対する理解と寛容の精神」を養い、教養豊かな社会人の育成をめざす。

「異質のものに対する理解と寛容」は、昭和24年(1949年)に若狭高校が誕生し、全国にその例を見ないユニークな縦割りホームルーム制を始めて以来一貫して若狭高校の教育理念であり、さらに平成6年(1994年)3月をもってホームルーム制が廃止された後も、その高らかな理念がひきつがれ、今日に至っています。

(2) 本年度の努力目標

- ①学力の向上に努め、自主及び自立の精神を育てる
- ②特別活動の充実に努め、自他の敬愛と協力の精神を育てる
- ③地域社会との連携に努め、若狭の自然や歴史と文化を大切にする心を育てる

(3) 学校再編

若狭高等学校は小浜藩校「順造門」を前身に若狭地方で中学教育が始められたことをルーツとしています。116年の歴史を持ち時代の変遷とともに時代のニーズに応えた再編が行われてきました。

平成25年4月には、若狭高等学校と小浜水産高等学校が統合し、新しい若狭高等学校が誕生しました。海洋科学科を新設し、海洋に関する専門的な科目を通して地球環境や食料資源、地域の課題について学習し、海洋を中心とした自然科学系の大学進学や海洋分野の資格を取得し、即戦力となる人材を育成するなど、将来地域社会で活躍できる人を育てることを目指しております。

(4) スーパーサイエンスハイスクール (SSH)

未来のための知識を紡ぐ人を育むことを目標に、平成23年度に文部科学省から指定を受け、科学技術系人材を育てるために、理数系教育の充実に図るための取り組みを実践しております。今年度は初の取組みとして、「環境・エネルギー学会」を開催し、環境・エネルギーをキーワードに、北近畿地域の高校生との間で、研究成果を持ち寄り交流しました。

この事業に取り組み、目指す将来像として

- ① 科学技術や数学に関する課題解決・成果発信等を担う、国際的に活躍する理数系人材
- ② 科学技術に関わる政策立案・意思決定等に寄与する文化系人材
- ③ 科学技術立国日本を支える科学技術の支援者・理解者

2 PTA活動と学校との関わり特色ある活動をするための取組み

(1) 総会 (5月)

5月第二日曜日または土曜日に開催され、約600人の保護者の方が来られます。

今年は朝から雨の悪天候の為、例年よりも少ない約500人が出席しました。

総会では新役員の紹介や今年度の事業や予算の審議がされ、会員の皆さんの承認を頂き、活動が本格的にスタートしました。

総会后、進路研修および指導があり、その後開催されたクラス懇談会に出席しました。

(2) 研修旅行 (7月)



毎年7月に各地の有名大学を訪問しており、今年
は関西大学に訪問しました。

本校出身の在学学生から、受験時および大学での生
活スタイルを聞きました。

その後、在学学生の説明を受け、質問等を交えなが
ら構内をまわり、有意義な訪問になりました。

毎年、大型バス2台分80名の参加があり、参加
されているお母様も、みんな大満足の様子で集合場
所へ帰ってこられました。

(3) 全国大会 (8月)



今年の全国大会は山口県で行われました。

少し遠いですが、来年の開催県が我が福井県になり、
本校からも生徒数割の参加者10名の参加要請があ
りました。

厳しいかなという不安の中で、元会長、副会長さん
も快く参加して頂き、何とか9名で参加できました。

開催地までは距離が遠いことから、2泊3日の行程
になり、1日目は移動を兼ねて、日本の歴史と文化と
パワースポットを巡りました。

2日目は早朝から大会に参加し、最終日は、皆さん
のお見送りをを行い来年の福井大会を呼びかけました。

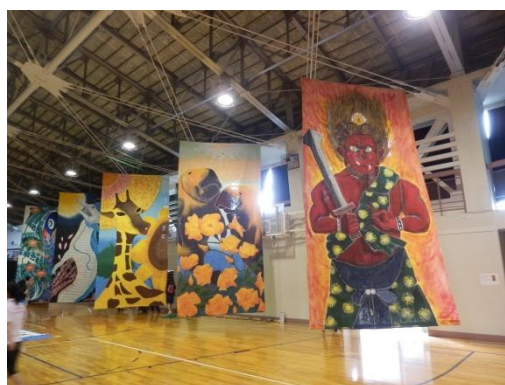
3日目は平和を学ぶ行程を経て夕方に帰宅しまし
た。大会参加を通して、全国の方と触れ合い、そして、
日本の素晴らしい所を再発見させて頂きました。

(4) 文化祭 (8月)

毎年PTAでは見学ツアーを計画し、参加者を募り、
会員の皆さんに参加して頂いていました。

他校では、PTAによる模擬店を開催しており、本校
でも実施できないかの声があがりました。

「ならば今年はやってみましょう。」と言うことで、
会議が盛り上がり、地元の海鮮ふぐ鍋と生徒会から要望
があったカキ氷の模擬店を実施することになりました。
担当委員の皆さんにも熱心に取り組んで頂き、1回目と
しては大成功に終わることができました。何よりも、保
護者と生徒の間が、グッと近付いたように思えます。



(5) 強歩大会 (10月)

1, 2年生の生徒が約30kmをウォーキングに挑戦します。毎年恒例の行事で、健全育成委員会が中心となり、交差点での誘導や生徒と一緒に歩くことなどのお手伝いをしています。

今年は、若狭小浜の寺社仏閣を巡りながら、歴史と文化を感じながらのコースです。

会員の中には誘導係よりも歩きたい！と希望が多く出ました。

本来ならば、PTAの立場で、生徒さんと語らいながら歩くのが良いのかなと思いましたが先導係としての参加になりました。驚きのハイペースで先頭の先生まで抜き去ろうとしましたが、そこはグッと我慢しました。途中の休憩場所で先頭から離脱しましたが、それでも28キロ堂々の完歩！参加した会員にとってもいい思い出が出来たかと思えます。

(6) 1年生対象 先輩から学ぶキャリア講座 (12月)

毎年1年生を対象に、先輩である社会人を講師としてお招きし、社会の厳しさ、心構え、ルールなどを説明してもらい、今後の進路を考えていく上での参考にしてもらっています。

でも、学生にはない、社会人になってからの楽しい事もいっぱいあるよ、と言ったことも説明してもらいました。

(7) 3年生 就職内定者との懇談会 (1月)

その年の就職内定者との懇談会。

PTA会員であるお父さんやお母さんがアドバイザーになり、卒業までに準備する事や心構えなどを優しく言ってくれます。面白かった質問は、新入社員で嫌なタイプ、好きなタイプって？という質問が有りました。



(8) 年3回発行の広報誌「PTAだより」

PTAだよりを毎年3回発行しています。

広報委員会が担当し、生徒の学習や行事などの様子や、PTAの取組みなど思考を凝らした取材や記事に挑戦するなどがんばってくれました。

昨年度はなんと、県で5位という輝かしい賞を頂きました。これも担当の副会長や委員さんのおかげです。

以上でPTA活動の報告を終わります。この1年間、我が校の会長、副会長、一般会員の皆さんが大変だと思われる行事を、本当に楽しく行うことができました。

PTAの役員ですから…と言って仕事を休ませてもらう。旦那さんの協力を頂く。

皆さんの協力を頂きながら、ここでしか出来ない事をいっぱい経験させて頂く。そして昨日まで知らなかった人と、同じ意志と目的を持って経験し、参加した者同志の絆が深まっていく。何よりも学校訪問の機会が増え、わが子の知らない成長を目の当りにし、感動すら覚えました。

さあ 殻を破って
飛び出そう!!
PTA活動って、
面白い! 楽しい!
そして 感動いた!!

【質疑応答と意見交換】 発表校 福井県立若狭高等学校 P T A

嶺南学園敦賀気比高校 P T A 橋本 氏

質問 全国大会参加において、かなり広範囲に観光を実施されたようだが、どのような方法で実現できたのか？

回答 観光を中心に三日間の行程で計画を練り、移動手段は小浜市からレンタカーを使用した。

嶺南学園敦賀気比高校 P T A 橋本 氏

質問 キャリアガイダンス的なことを実施されているが、講座・講師の数？

回答 3年間続けており好評である。昨年は2講座で4名の講師に依頼した。

嶺南学園敦賀気比高校 P T A 橋本 氏

質問 文理探究のクラス分けはどのようにしている？

回答 生徒の希望を尊重し、無理な調整はしない。(人数に偏りはある)

福井県立美方高校 P T A 宮下 氏

質問 学校見学等の研修会の開催は、平日にもかかわらず参加者数が多いのは何故？

回答 平日でないといけない校が見つからない。(主に関西圏の有名国公立・私立大学)

母親の関心が高く参加のほとんどをしめている。

若狭高校出身の在學生に体験談などを聞くことができるのも魅力。

福井県立美方高校 P T A 宮下 氏

質問 就職内定者会について？

回答 先輩達から、生活環境等が変化することなどについて、社会人になるためのアドバイスを受ける。参加者全員が発言しており、生徒一人ひとりがしっかりと印象を受けた。

福井県立敦賀高校 P T A 福谷氏

質問 研修会や総会などへの参加者が多いのは何故？何か特別な工夫があるのか？

研修会の参加費はどのくらい？

回答 研修会に妻が参加し、感想を聞いたところかなり有意義な時間を過ごしている実態がうかがえ、母親の間ではなくてはならない行事となっている様子。

研修会は勉強が目的であるが、昼食時や自由時間（ショッピングなど）での交流や親睦を通して情報交換ができることが好印象を与えているようで、参加者数が増える要因ではないかと思う。

総会の参加者数が多いのは、進路指導やクラス別懇談会を同時開催しているからだと思う。

特別な工夫ではないが、総会は必ず土・日に開催している。研修会参加費はできるだけ安価にと 3,000 円としている。(基本昼食代程度)

福井県立敦賀工業高校 P T A 奥村氏

質問 学校再編により、新設された海洋科学科には女生徒もいるのですか？また将来はどのような進路を歩まれるのか？(漁業なのか)

回答 女生徒もおりますが漁業としての“海女”は目指していません。(現在小浜には海女漁はない) 主には、海洋資源の研究や開発などが進路として考えられます。

『みんなのPTA』

平成25年度 福井県PTA指導者研修会報告書

発 刊 平成26年2月

編 集 福井県生涯学習センター

〒918-8135 福井市下六条町14-1

印 刷 エフ・ケー・マイクロ（株）

〒910-0859 福井市日之出2丁目5-5